

四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
第百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
第百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ
第百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
第百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
第百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附

○擔保附社債信託法施行細則

明三八、五、三一 大令三五
改正 大五、五 同 一二

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差出スヘシ
前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
一 定款又ハ會社契約書ノ謄本
二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
三 最終ノ貸借對照表
第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滯ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
一 信託證書謄本

スヘシ
第百十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
第百十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス
第百十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第十六條又ハ第十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル
第百二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年六月勅令第一八五號ヲ以テ同三十八年七月一日ヨリ施行)

二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本
三 社債募集ノ事山ヲ記載シタル書面
前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス
前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ
前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附スヘシ
第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)
第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
一 信託證書案
二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本

擔保附社債信託法關係

- 三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面
- 四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
- 五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シタル書面
- 第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ屆書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
- 第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ召集アリタルトキハ遲滯ナク集會ノ目的、場所、期日及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 信託會社カ社債權者集會ノ決議録ヲ作成シ又ハ決議録謄本ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ決議録謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ
- 社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滯ナク其ノ顛末ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
- 第十條 擔保附社債信託法第四十九條ノ二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

三五二

- 一 集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面
- 二 召集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ召集ノ手續ヲ爲サザリシ事實ヲ記載シタル書面
- 前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ
- 第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
 - 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面
- 第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録謄本ヲ添附スヘシ
- 一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會

社ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面

二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ

遲滯ナク供託金受領書謄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル

検査ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ年月日及検査ノ狀況

ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國

會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テ

ハ委託會社ハ認可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四

號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託

會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シ

タル書面

二 信託事務ニ關スル計算書

三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル認可申請書

ニハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關

スル計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ

擔保附社債信託法關係

解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但

シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録謄本

ヲ添附スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル屆書ニ

ハ同條第一項ノ契約書謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附ス

ヘシ但シ第十五條ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラ

ス

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル屆書ニ

ハ引繼ノ顛末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘ

シ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滯ナ

ク總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法

第七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滯ナク各會社共同シテ

左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ併合ニ依リ信託ノ業

務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 合併ニ關スル契約書

二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存續スル會社ノ定款

三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社

各自ノ貸借對照表

三五三

擔保附社債信託法關係

四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
 五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面
 合併セムトスル會社カ銀行タルトキハ銀行條例施行細則第八條ニ依ル認可申請書ニ第十五條第一號乃至第三號及前項第五號ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
 合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存續スル會社カ新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ
 第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依リ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ
 前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一二當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス
 第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滯ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ
 清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滯ナク届出ツヘシ

清算カ結了シタルトキハ遲滯ナク決算書ヲ添附シテ届出ツヘシ
 第二十四條 信託會社カ登記又ハ登錄ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滯ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
 二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ
 三 検査役ノ選任アリタルトキ
 四 任拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ
 五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ招集ヲ爲シタルトキ
 第二十六條 大正五年大藏省令第十號銀行條例施行細則第九條乃至第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規定ハ信託會社ニ準用ス但シ營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ調製スヘシ
 信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ

附 則
 第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十八年七月一日ヨリ施行)
 (附屬様式)

(本様式ニ記載スルノ外他ノ勘定アルトキハ類似ノ項ニ準シテ便宜調製スヘシ)
 信託契約
 信託契約ノ口數及社債金額左ノ如シ

種類	前 期		當 期		現 在	
	口 數	社 債 金 額	口 數	社 債 金 額	口 數	社 債 金 額
當會社募集		円		円		円
當會社總額引受						
委託會社募集						
第三者總額引受						
計						

(承繼契約ニ依リ前受託會社ヨリ引渡サレタル高ハ當期契約ニ辭任又ハ解任ニ依リ引繼キタル高ハ當期解約ニ合算シ各其ノ口數及社債金額ヲ相當欄ニ附記スヘシ)

當會社募集社債現在高内譯

擔保附社債信託法關係

委任會社名	現發行高	未發行高	合計	擔保		擔保價格
				不動產抵當	擔保價格	
				船舶抵當鐵道抵當		
				動產質工場抵當		
				何々		
				、、、、		
				、、、、		
				、、、、		

當會社總額引受社債現在高内譯
委託會社募集社債現在高内譯
三者總額引受社債現在高内譯
擔保附社債引受ニ關スル勘定左ノ如シ

(右各種ハ受託會社募集社債現在高内譯ニ準シ詳記ス
(シ))
擔保附社債ノ引受

券面金額	前期繰越高	當期引受高	當期賣出高	現在高	實價金額

一 當期賣出高中當期ニ於テ當會社所有ニ振替ヘシモノ券面何程實價何程アリ
二 當期賣出實價ノ外賣出利益何程アリ (又ハ當期賣出實價ノ内賣出損何程ヲ包含セリ)
三 現在實價ノ内評價益何程ヲ包含セリ (又ハ現在實價

ノ外評價損何程ヲ生シタリ)
擔保附社債元利金勘定
當期間當會社ニ於テ取扱ヒタル擔保附社債ノ元利金受拂勘定ハ左ノ如シ

前期繰越元受高	當期元受高	內承繼契約ニ依リ引渡サレタル高	計	當期仕拂高	內引繼契約ニ依リ引繼ギタル高	差引現在高	元金勘定		利率		金勘定	
							口數	金額	口數	札	金額	口數

○自動車取締令

改正
大正八年一月十一日
内令第一號
大正十二年十二月
内令第四四號

自動車取締令左ノ通之ヲ定ム

自動車取締令

第一條 本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用キ軌條ニ依ラスシテ運轉スル車輛ヲ謂フ

第二條 自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トス但シ地方長官ハ道路區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 轍ハ護謨製ノモノタルヘキコト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ニ異ナルモノヲ用ユルコトヲ得
- 二 各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキコト

検査證明ノ爲検査證ヲ交付セラレタルトキハ車體内部ニ之ヲ標示スヘシ

第六條 自動車ノ主タル使用地ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨後ノ使用地ノ地方長官ニ届出テ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ検査ニ合格シタル自動車ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地(商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其ノ所在地)ノ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ主タル使用地(商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其ノ所在地)ノ地方長官ニ届出タルトキハ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ

第七條 自動車ノ構造裝置ニシテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 原動機
- 二 爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ匱、管
- 三 氣筒及曲柄
- 四 制動機、變速機及換向機
- 五 電氣裝置(電路ヲ除ク)
- 六 車 臺
- 七 車 體

第八條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ定ムル所ニ依リ検査又ハ試運轉若

自動車及索道關係

三 變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ暗易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキコト

四 蒸氣、瓦斯又ハ油其ノ他ノ爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ匱、管及氣筒竝電氣裝置等ハ堅牢ニ作リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘキコト

五 運轉ニ際シ甚シキ騒響ヲ發シ又ハ有臭若ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セサル構造タルヘキコト

六 車輛ノ總重量八百封度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及逆行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキコト

七 適當ナル音響器ヲ備フヘキコト

八 車輛ノ前面ニハ二箇以上、後面ニハ一箇以上ノ相當光力ヲ有スル燈火ヲ備ヘ後面燈火ハ運轉手ノ座席ヨリ消燈シ得サル様裝置スヘキコト

第五條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ届出テ其ノ検査ヲ受クヘシ商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ得
検査ニ合格シタルトキハ検査ノ證明ヲ爲シ車輛番號ヲ指示ス

ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行ヒ必要ト認メタルトキハ使用ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ使用ノ禁止ヲ命セラレタルトキハ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者ハ其ノ構造裝置ニ付危害ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘシ

第十一條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用スル者其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ニ届出テ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ

第十二條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營マムトスル者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ營業地ノ地方長官其ノ他ノモノハ營業所々在在地ノ地方長官ニ届出テ其ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ規定ニ依ル營業ノ免許ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓受又ハ相續スルコトヲ得ス

第十四條 營業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ廢止前營業地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 運轉手タラムトスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ届出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免

許證ヲ交付ス運轉手免許證ハ甲乙ノ二種トシ甲種免許證
ヲ有スル運轉手ハ各種ノ自動車ヲ運轉スルコトヲ得乙種
免許證ヲ有スル運轉手ハ特定又ハ特種ノ自動車ニ非サレ
ハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス

運轉手免許ノ有効期間ハ五年トス

第十六條 運轉手ノ免許ハ試驗ニ合格シ左ノ各號ノ一ニ該
當セサル者ニ之ヲ與フ

一 十八歳未満ノ者
二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者
三 其他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者
運轉手ノ試驗ハ、地方長官ノ定ムル所ニ依リ、自動車ノ構
造、取締規則及實地ノ技能ニ關シ之ヲ行フ

第十六條ノ二 現ニ運轉手タルモノニシテ運轉手免許ノ有
效期間滿了後仍ホ引續キ運轉手タラムトスル者ニ付テハ
前條第一項各號ノ一ニ該當セス且相當技量アリト認メタ
ル者ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラス試驗全部又ハ一部ヲ省略
シテ免許ヲ與フルコトヲ得

第十七條 運轉手免許證ハ就業中之ヲ携帶スヘシ

第十八條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損
シタルトキハ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ
自動車ノ検査證明ヲ毀損シタルトキハ地方長官ニ願出テ

示スヘシ後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ
認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ

第二十四條 検査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコト
ヲ得ス

第二十五條 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタ
ルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業員ハ被害者ノ救
護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官
吏在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

運轉手其ノ他ノ從業員ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇
主、自動車使用者ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ其ノ名
稱、事務所所在地）及車輛番號ヲ警察官吏ニ申告シ、警
察官吏在ラサルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項
ヲ通告スルニ非サレハ自動車ノ運轉ヲ繼續スルコトヲ得
ス

前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運
轉手其ノ他ノ從業員ハ遲滞ナク前各號ノ事實ヲ警察官吏
ニ申告スヘシ乗用者ハ運轉手其ノ他ノ從業員カ前四項ノ
措置ヲ爲スニ付之ヲ妨クルコトヲ得ス

第二十六條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第
十二條ノ規定ニ依ル營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止ス

其ノ證明ヲ受クヘシ

第十九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ運轉手ハ遲滞ナク免許
證ヲ返納スヘシ

一 第二十七條ニ依リ免許ノ取消又ハ就業ヲ停止セラレ
タルトキ

二 免許ノ有効期間ヲ經過シタルトキ
運轉手死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキハ其ノ雇主戸
主、又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五
日內ニ免許證ノ寫ヲ添へ後ノ就業地ノ地方長官ニ届出ツ
ヘシ

第二十一條 前條ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長
官必要ト認ムルトキハ第十六條第二項ニ依リ試驗ヲ行フ
コトヲ得

前項ノ試驗ニ合格セサルトキハ其ノ道府縣內ニ於ケル就
業ヲ停止スルコトヲ得

第二十二條 運轉手ヲ雇入タル者ハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ
添へ運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

運轉手ヲ解雇シタル者ハ十日內ニ運轉手ノ氏名ヲ地方長
官ニ届出ツヘシ

第二十三條 車輛番號ハ車輛ノ前面及後面暗易キ箇所ニ標

ルコトヲ得

一 正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營
業ヲ開始セサルトキ

二 營業ヲ繼續スルニ適セスト認メタルトキ

三 公安上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ

四 營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運
轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得

一 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ

二 第十六條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リ
タルトキ

三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一
項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九條
第一項、第十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ
違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ
罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ
科料ニ處ス

第三十條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第

七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キテ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ

第三十一條 營業用又ハ家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十三條 自動自轉車(サイドカー附ノモノヲ除ク)及オートペッドノ類ニ付テハ其ノ運轉者ニ對シ第三條、第二十五條及其ノ罰則ノ規定ヲ適用スルノ外本令ヲ適用セス前項ノ外特種ノ自動車ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依

○自動車ヲ以テスル運輸營業ニ關スル件

昭和三年十一月二十七日
鐵訓令第一號

廳 府 縣

一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業ニ關シテハ昭和二年八月遞信省訓令第一號ニ據リ本大臣ニ稟伺スヘシ

○一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業許可ニ關スル件

昭和二年八月二十六日
遞訓令第一號

廳 府 縣

リ第四條ノ規定ニ依ル構造裝置ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
第三十四條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第三十五條 本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス
第三十六條 本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス
本令施行前ニ於テ自動車ノ検査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月内ニ、其ノ他ノ地方ニ在リテハ三箇月内ニ本令ニ依リ検査又ハ免許ヲ受クヘシ

前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
第三十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

一定ノ路線ニ據リ自動車ヲ以テスル運輸營業ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ許可セムトスルトキハ起業ノ大要ヲ具シ豫メ本大臣ニ稟伺スヘシ營業ノ讓渡、相續若ハ廢止又ハ路線ノ新設、廢止若ハ變更ヲ許可セムトスルトキモ亦同シ

記

- 一 路線ノ總哩程二十哩以上ノモノ
- 二 府縣廳所在地(近郊地ヲ含ム)又ハ市制施行地(近郊地ヲ含ム)相互間ヲ連絡スルモノ
- 三 東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市、名古屋市内ニ於テ營業スルモノ
- 四 鐵道軌道其ノ他一定ノ路線ニ據ル交通機關トノ競争線ト目スヘキモノ

○索道事業規則

昭和二年九月三日
遞令第三六號

索道事業規則左ノ通定ム

索道事業規則

- 第一條 本令ニ於テ索道ト稱スルハ架空シタル索條鐵線其
ニ類似スルニ搬器ヲ懸吊シテ運搬ヲ爲ス設備ヲ謂フ
- 第二條 索道ハ左ノ二種トス
第一種 人又ハ人及物ノ運搬ヲ爲スモノ
第二種 物ノ運搬ヲ爲スモノ
- 第三條 本令ニ於テ索道事業ト稱スルハ一般ノ需要ニ應ジ
又ハ營業トシテ索道ニ據リ運送ヲ爲ス事業ヲ謂フ
- 第四條 索道事業ヲ經營セムトスル者ハ索道ヲ設備スル地
ノ地方長官東京府ニ在リテハ東京府知事及
警視總監以下地方長官ト稱スノ許可ヲ受ク
ヘシ
- 第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ
具備シタル許可申請書正副二通ヲ提出スヘシ
一 起業目論見書
二 線路平面圖

- 三 建設費豫算書第一號様式ニ依
リ調製スヘシ 既設ノ索道ニ據ラムト
スルモノニ在リテハ其ノ建設費及改築ヲ要スル場合
ニハ其ノ改築費ノ豫算書第一號様式ニ依
リ調製スヘシ
- 四 事業上ノ收支概算書第二號様式ニ依リ調製
スヘシ以下之ニ同シ
- 前項ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 第五十條ノ規定ニ依リ設備シタル索道ニ據リ索道事
業ヲ經營セムトスルモノニ在リテハ索道設備ニ關ス
ル許可書及其ノ使用ニ關スル認可書ノ謄本
- 二 電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ電氣設備ヲ爲サム
トスルモノニ在リテハ其ノ施設ニ關スル當該官廳ノ
許可書又ハ認可書ノ謄本、未タ其ノ許可又ハ認可ヲ
得サルモノニ在リテハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出中
ナル旨ヲ記載セル書面
- 三 電氣ヲ動力トスルモノニシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受
クルモノニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書電力契
約期間其ノ他ノ受電條件ノ謄本
ヲ具備スルコトヲ要ス
- 四 會社又ハ組合ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款
又ハ契約書ノ謄本
- 五 既設ノ會社又ハ組合ノ事業ニ在リテハ定款又ハ契約

- 書及會社登記簿ノ謄本並株主總會若ハ社員又ハ組合
員ノ索道事業經營ニ關スル議事及決議ノ要領書
- 六 公共團體ノ事業ニ在リテハ其ノ團體ノ索道事業經營
ニ關スル決議書ノ謄本
- 七 前三號以外ノ法人ノ事業ニ在リテハ第四號及第五號
ニ準シ作製シタル書類
- 第六條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 目的第一種又ハ第
二種ノ區別
- 二 商號又ハ名稱
- 三 主タル事務所ノ所在地別ニ主タル營業所ヲ設クルト
キハ其ノ所在地ヲモ記載スヘシ
- 四 資本金ノ額及其ノ出資方法
- 五 線路ノ起點、終點、起點、終點トモ道府縣郡市經過地
道府縣郡市町村及互長
名ヲ記載スヘシ
- 六 原動力ノ種類
- 七 原動力設備ノキロワット數
- 八 事業經營期間
- 第七條 線路平面圖ハ陸地測量部發行ニ係ル五萬分ノ一以
上ノ地圖ニ線路及停留場其ノ他重要ナル工作物ノ位置ヲ
記入シ之ヲ作製スヘシ
- 第八條 索道事業者第六條第一號又ハ第五號乃至第八號ニ

- 掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ第五條ノ規定ニ準シ
關係ノ書類又ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ線
路ヲ新設又ハ増設セムトスルトキモ亦同シ
- 第九條 第五條第二項第一號乃至第四號、第五號定款ニ若
ハ第七號定款又ハ之ニ準ス又ハ第六條第二號乃至第四號
ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ索道事業者ハ遲滞ナ
ク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十條 第四條ノ規定ニ依リ索道事業經營ノ許可ヲ受ケム
トスル者ハ許可申請書ノ提出ト同時ニ左ノ書類及圖面ヲ
具備シタル工事施行認可申請書第一種索道ニ關
シテハ正副二通ヲ地方長
官ニ提出スヘシ但シ第五條第二項第一號ニ掲クル索道事
業者其ノ索道ノ使用ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノ
ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 實測圖
- 二 工事方法書
- 三 道路、河川其ノ他公用ニ供スル土地物件ノ使用又ハ
占用ニ付行政廳ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ當該
行政廳ノ許可書ノ謄本、未タ其ノ許可ヲ得サルモノ
ニ在リテハ其ノ願書ヲ當該行政廳ニ提出中ナル旨ヲ
記載セル書面

前項ノ規定ハ索道事業者第八條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 實測圖ハ左ノ二種トス

一 實測平面圖

縮尺二千分ノ一以上トシ左ノ事項ヲ記載スヘシ

(イ) 線路中心線ノ位置及二百米毎ニ其ノ行程

(ロ) 停留場ノ位置及其ノ中心行程

(ハ) 支柱ノ位置

(ニ) 線路中心線ノ左右各四十米以内ノ地勢、地物

人家、危險物貯藏所、電信電話線、電燈電及行

力線、鐵道、軌道、道路、河川、公園等

政區劃ノ境界線

(ホ) 縮尺及方位

二 實測縱斷面圖

縮尺横二千分ノ一以上、縦五百分ノ一以上トシ左ノ

事項ヲ記載スヘシ

(イ) 線路中心線ノ地盤高

(ロ) 停留場ノ位置

(ハ) 支柱ノ位置及高

(三) 線路カ横斷スル地物ノ位置及高

(ホ) 縮尺

第十二條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

五 送電ノ不時停止シタル場合其ノ他索道ノ不時運轉停止シタル場合ニ於ケル應急方法

第十三條 索條ノ強度ハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ左ノ各號ニ依リ計算スヘシ

一 搬器ノ配置力所定ノ最小間隔ニ於テ索條ニ最大張力ヲ生セシムルモノトシテ左ノ荷重ヲ考慮シ計算スル

コト

(イ) 索條ノ自重

(ロ) 搬器ノ重量及最大積載重量ハ旅客運送ニ在リテ

一人平均六十斤ト

(ハ) 搬器及索條ノ投影面積ニ對シ一平方米ニ付搬

器ニ對シテハ五十斤、索條ニ對シテハ三十斤

ノ割合ニテ加ハル風壓

二 安全係數ハ少クとも左ノ標準ヲ下ラサルコトトシ使

用期間、運搬量及索道ノ構造等ヲ考慮シ相當之ヲ増

大スルコト

(イ) 第一種索道 十二 鐵線ニ在リ

(ロ) 第二種索道 六 鐵線ニ在

第一種索道ニ在リテハ七條以上ノ鋼線ヨリ成ル索條又ハ

一 索道ノ方式

二 停留場ノ位置

三 原動機ノ種類及キロワツト數

四 索條ノ種類、基礎、最大間隔及平均間隔

五 支柱ノ種類、重量、箇數、最大積載量

六 搬器ノ種類、重量、箇數、最大積載量

七 運轉速度及一日ノ最大運搬量

八 沿線ノ保安裝置

九 避雷裝置

十 工事ノ著手及竣工ノ期日

前項ノ工事方法書ニハ索條及支柱ノ強度計算書並局部圖

面ヲ以テ表示シタル工作物及機械器具ノ構造圖ヲ添附ス

ヘシ尚第一種索道ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載シタル書類

ヲ添附スヘシ

一 搬器移動ノ方法

二 索條及搬器ノ保安裝置、機械ノ制動裝置、搬器ト原

動機設置箇所トノ間ノ信號設備

三 索條ノ構造、強度、接續方法及緊張方法

四 主原動機及豫備原動機ノ構造並其ノ連結方法

架空軌條ニ限リ之ヲ使用スヘシ

架空軌條ニ據ルモノヲ除ク外第一種索道ニ在リテハ支

架器ヲ懸吊スル爲メ及曳索搬器ヲ牽引スル爲メハ各二條以

上ノ索條ヨリ成ルモノヲ使用スヘシ但シ曳索カ充分堅牢

ニシテ支索カ切斷スルコトアル場合ト雖安全ニ搬器ヲ支

持シ得ヘキモノナルトキハ支索ハ之ヲ一條ト爲スコトヲ

得

第十四條 索條ノ勾配ハ握索裝置ヲ用フル索道ニ在リテハ

左ノ制限ニ依ルヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

(イ) 第一種索道 水平線ト三十度以内

(ロ) 第二種索道 水平線ト四十五度以内

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ握索裝置ノ構造其ノ他ノ事

由ニ因リ一層嚴重ナル制限ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條 支柱ノ強度ハ左ノ各號ニ依リ計算スヘシ

一 支柱ニハ左ノ荷重カ同時ニ加ハルモノトシテ計算ス

ルコト

(イ) 支柱ノ自重ニ依ル垂直荷重

(ロ) 索條ノ重量、搬器ノ重量及最大積載重量ニ依

ル垂直荷重

(ハ) 支柱材、搬器及索條ノ投影面積ニ對シ一平方

米ニ付平面ニ對シテハ五十疋、圓壘面ニ對シテハ三十疋ノ割合ニテ加ハル風壓ニ依ル水平荷重

(ニ) 線路ニ角度アル爲索條ノ張力ニ依リテ生スル垂直又ハ水平荷重

(ホ) 索條運轉ノ爲支柱頂部ニ於テ線路ノ方向ニ加ハル水平荷重、引留支柱ニ在リテハ引留索條ノ張力ニ依ル水平荷重

二 支柱ハ前號ニ依リテ計算スルノ外尙前號(ロ)(ハ)ノ荷重ニ於テ搬器ニ因リテ生スル荷重ヲ除外シ(ハ)ノ荷重ニ於テ一平方米ニ付平面ニ對シテハ二百疋、圓壘面ニ對シテハ二百疋ノ割合ニテ加ハル風壓ヲ考慮スル場合ニ於テモ安全ナル様計算スルコト

三 支柱材料ノ應力度ハ地方長官ノ認可ヲ受ケテ特殊ノ材料ヲ使用スル場合ヲ除クノ外左表ノ制限ヲ超過セサルコト

材料	應張力度 (一平方糎ニ付疋)		應壓力度 (一平方糎ニ付疋)		應壓力度ニ對スル長柱公式	
	第一種索道	第二種索道	第一種索道	第二種索道	第一種索道	第二種索道
通常構造用壓延鋼	九一〇	一一五〇	九一〇	一一五〇	$P = 920 \left(1 - 0.003 \frac{1}{r} \right)$	$P = 1150 \left(1 - 0.003 \frac{1}{r} \right)$
鑄鐵	一六〇	二〇〇	一六〇	二〇〇	$P = 60 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$	$P = 75 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$
松	六〇	七五	六〇	七五	$P = 50 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$	$P = 65 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$
檜	五〇	六五	五〇	六五	$P = 40 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$	$P = 50 \left(1 - 0.02 \frac{1}{d} \right)$
杉	四〇	五〇	四〇	五〇		

前表中長柱公式ニ於テPハ長柱ノ應力度(一平方糎ニ付疋)、rハ断面ノ最小二次率半徑、dハ断面ノ最小徑(糎)トス

(糎)、dハ断面ノ最小徑(糎)トス

第一種索道ニ在リテハ支柱ハ鐵構造又ハ鐵筋コンクリート構造タラシムヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一種索道ニ在リテハ索條ノ引留箇所ノ外線路保安用ノ爲線路ノ互長一籽以內毎ニ引留支柱ト同一強度ノ支柱一基ヲ設クヘシ

支柱ニハ事業者ノ記號、支柱番號及建設年月ヲ表示スヘシ

第十六條 搬器ノ下端ハ停留場以外ノ場所ニ於テハ地表面ヨリ五米以上ノ高ヲ有セシムヘシ但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 搬器ニ原動機ヲ設備シテ運轉スル索道ニ在リテハ搬器ノ衝突ヲ防止スル爲適當ナル信號裝置ヲ設クヘシ

第十八條 電信電話線、電燈電力線、鐵道、軌道、道路交通頻繁ナラサル舟運ノ頻繁ナラ等ノ上空ニ索條ヲ架設セムトスルトキハ左ノ制限ニ從ヒ搬器ノ墜落、落貨其ノ他工作物ノ故障ニ因ル危險豫防ノ保安裝置ヲ爲スヘシ

一 保安裝置トシテ鐵線網鐵線五糎以上、ヲ設クヘシ

二 鐵線網ノ大ハ電信電話線、電燈電力線、鐵道、軌道、

道路、河川等ノ外側ヨリ水平距離ニ於テ一米以上、索條ヨリ水平距離ニ於テ二米半以上トス

三 鐵線網ノ高ハ地表面ヨリ五米以上、建造物上ヨリ二米以上トス

前項ノ場合ニ於テ關係管理者ノ要求ニ因リ地方長官ニ於テ必要アリト認メタルトキハ一層堅牢ナル裝置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

電信電話線、電燈電力線、鐵道、軌道、道路交通頻繁ナラ除ク舟運ノ頻繁ナラ等ト接近シテ索道ヲ架設セムトスルトキハ其ノ外側ト索條トノ間ニ水平距離ニ於テ四米以上ノ間隔ヲ有セシムヘシ

第一項又ハ前項ノ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受ケテ其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テハ索道事業者ハ關係管理者ノ立會ヲ求ムル爲工事著手三日前途ニ之ヲ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理又ハ撤去スル場合モ亦同シ

第十九條 索條ハ人家、危險物貯藏所又ハ公園其ノ他多衆集スル場所ノ上空ヲ通過スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ保安裝置ニ依ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前項ニ掲クルモノト接近シ

テ索道ヲ架設セムトスル場合ニ之ヲ準用ス
第二十條 第一種索道ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

- 一 豫備原動力設備
 - 二 不時ノ故障ニ因リ曳索ニ異狀ノ張力ヲ生シタル場合ニ於テ原動機力自動的ニ運轉ヲ停止スヘキ設備
 - 三 支索ノ一條カ切斷スルモ搬器ノ墜落スルコトナキ設備
 - 四 索道ノ不時運轉停止シタル場合ニ搬器ノ所在箇所ニ於テ又ハ最近ノ支柱若ハ停留場迄搬器ヲ移動シテ搭乗セル人ヲ安全ニ下降セシムヘキ裝置
 - 五 同一線路ニ屬スル原動機設置箇所、停留場 係員ノ駐在モノヲ、技術員駐在所、信號所監視所相互間ニ於ケル除ク、技術員駐在所、信號所監視所相互間ニ於ケル専用電話設備
 - 六 搬器ノ看易キ場所ニ番號、定員又ハ最大積載量及行先ノ揭示
 - 七 索道係員ニ限り開閉シ得ル搬器ノ出入口設備
- 第二十一條 索道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手シ且之ヲ竣工セシムヘシ
- 第二十二條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テハ地方長官ハ索道事業者ノ申請ニ因リ前條ノ規定ニ

テ經營セムトスルトキハ讓渡又ハ合併ニ關スル契約書ノ謄本、讓受後又ハ合併後ニ於ケル事業上ノ收支概算書及合併ニ因リ會社ヲ設立スルモノニ在リテハ其ノ定款ノ謄本ヲ添ヘ當事者連署ノ上地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ當事者法人又ハ組合ナルトキハ總會其ノ他相當機關ノ議事及決議ノ要領書又ハ社員若ハ組合員ノ同意書ノ謄本、讓受クヘキ者索道事業者ニ非サル法人又ハ組合ナルトキハ定款及會社登記簿ノ謄本又ハ組合契約書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第一項ノ許可ヲ受ケタルトキハ讓受人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リ設立スル會社ハ讓渡人又ハ合併ニ因リ消滅スル會社ノ本令ニ依リ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十七條 索道事業者ノ相續人引續キ索道事業ヲ經營セムトスルトキハ遲滞ナク戸籍謄本ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ相續人ハ被相續人カ本令ニ依リ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十八條 索道事業者ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ清算人、第八號ノ場合ニ於テハ後見人、第十號ノ場合ニ於テハ戸籍法第十七條ニ依ル届出義務者ヨリ之ヲ届出ツヘ

依ル期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ

第二十三條 索道事業者第十條ノ規定ニ依リ工事施行ノ認可ヲ受ケタル後工事方法書又ハ實測圖 第十一條各號(イ)事項ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ第十條ノ規定ニ準シ關係ノ書類又ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 索道滅失又ハ損壞シタルトキハ其ノ復舊工事ニ限リ索道事業者ハ第十條ノ認可ヲ受ケスシテ之ヲ著手スルコトヲ得

第二十五條 索道事業者ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ索道ヲ使用スルコトヲ得ス

引續キ六月以上索道ヲ使用セサルトキハ更ニ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前二項ノ認可申請アリタルトキハ地方長官ハ検査吏員ヲ派遣シ其ノ竣工シタル索道ヲ検査セシメタル上使用認可證ヲ交付スヘシ但シ検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトヲ得

第二十六條 索道事業者索道ヲ讓渡シ又ハ索道事業者タル會社合併ヲ爲サムトスル場合ニ於テ讓受人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リ設立スル會社引續キ索道事業

- 一 法人設立ノ登記ヲ爲シ又ハ組合成立シタルトキ
 - 二 法人又ハ組合解散シタルトキ
 - 三 讓渡又ハ合併ヲ終了シタルトキ
 - 四 工事ニ著手シ又ハ工事竣工シタルトキ
 - 五 事業ヲ開始休止又ハ廢止シタルトキ
 - 六 停留場ヲ開廢シタルトキ
 - 七 法人又ハ組合ノ代表者ニ異動アリタルトキ
 - 八 事業者禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 九 事業者準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 十 事業者死亡シタルトキ
- 前項第五號又ハ第六號ノ場合ニ於テハ索道事業者ハ其ノ旨停留場其ノ他ノ看易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第二十九條 左ノ場合ニ於テハ索道事業經營ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 許可ヲ受ケタル者會社ノ發起人其ノ他法人ノ設立者ナルトキハ指定ノ期間内ニ法人設立ノ登記ヲ爲ササルトキ
 - 二 指定ノ期間内ニ工事ニ著手シ又ハ工事竣工セサルトキ

- 三 工事竣工後一年以内又ハ使用認可證交付後六月以内ニ事業ヲ開始セサルトキ
- 四 引續キ六月以上事業ヲ休止シタルトキ
- 五 事業ノ全部ヲ廢シタルトキ
- 第三十條 索道事業者ハ運輸規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ
- 第三十一條 運輸規程ハ停留場其ノ他ノ看易キ場所ニ之ヲ揭示スヘシ
- 第三十二條 地方長官ハ公益上ノ必要アリト認ムルトキハ運輸規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第三十三條 索道事業者ハ正當ノ事由ナクシテ物又ハ旅客ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第三十四條 運送物ハ法令又ハ運輸規程ニ別段ノ定ナキ限り之ヲ受取リタル順序ニ依リ運送スヘシ
- 第三十五條 索道ノ運轉速度ハ一分時百五十米ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十六條 索道ハ風速一秒時二十米ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス
- 第三十七條 第一種索道ニ據ル索道事業者ハ技術ニ關スル事項ヲ擔當セシムル爲主任技術者ヲ選任スヘシ但シ地方

- 長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 索道事業者前項ノ主任技術者ヲ選任セムトスルトキハ履歴書ヲ添ヘ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ
- 地方長官ハ主任技術者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ力解任ヲ命スルコトヲ得
- 第三十五條 索道事業者ハ毎決算期後一月内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル報告書二通ヲ地方長官ニ提出スヘシ
 - 一 當該決算期ノ事業ノ狀況、收入及支出
 - 二 當該決算期末現在ノ調査ニ依ル財産目錄
- 決算期ノ定ナキモノニ在リテハ毎事業年度後一月内ニ前項ノ規定ニ準シ報告書ヲ提出スヘシ
- 事業年度ハ特ニ之ヲ定メサルトキハ毎年一月一月ニ始リ十二月三十一日ニ終ルモノトス
- 第三十六條 索道事業者ハ工作物ノ故障、搬器ノ墜落、落貨其ノ他ノ事故アリタルトキハ地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第三十七條 索道事業者ハ搬器及索條、支柱其ノ他ノ工作物ヲ完全ナル状態ニ保持スヘシ
- 第三十八條 地方長官ハ必要ニ應ジ監査員ヲ派遣シテ工事又ハ設備ノ状態ヲ監査セシムルコトヲ得

- 第三十九條 地方長官ハ公益上ノ必要アリト認ムルトキハ設備ノ變更、改築又ハ修繕ヲ命スルコトヲ得
- 第四十條 索道事業者本令又ハ本令ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ索道事業經營ノ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ運轉ノ停止ヲ命スルコトヲ得
- 第四十一條 索道事業者索道ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ工作物ヲ撤去スヘシ索道事業經營ノ許可其ノ效力ヲ失ヒ又ハ取消サレタルトキモ亦同シ
- 第四十二條 第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケスシテ索道事業ヲ經營シ又ハ其ノ目的ヲ以テ索道ヲ設備シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十三條 索道事業者左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第八條、第十八條、第十九條、第二十五條第一項若ハ第二項、第二十六條第一項、第三十七條又ハ第四十一條ノ規定ニ違反スルコト
 - 二 第十條又ハ第二十三條ニ依リ認可ヲ受クヘキ工事ニ認可ヲ受ケスシテ著手スルコト
 - 三 第三十九條又ハ第四十條ニ依ル命令又ハ處分ニ違反

- 第四十四條 前二條ノ場合ヲ除クノ外本令又ハ本令ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
- 第四十五條 索道係員左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス
 - 一 第十條又ハ第二十三條ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度若ハ搬器ノ最大積載量、旅客運送ニ在リテハ定員、搬器ノ最小間隔ヲ短縮シテ運轉スルコト
 - 二 第三十三條第二項ノ規定ニ違反スルコト
 - 三 物運搬用搬器ニ人ヲ搭乘セシムルコト但シ索道ノ検査、修繕其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ搭乘セシメタル場合ヲ除ク
 - 四 前三號ニ掲クルモノヲ除クノ外職務上ノ義務ニ違反シ又ハ之ヲ怠リ旅客又ハ公衆ニ危害ヲ齎ス虞アル行爲ヲ爲スコト
- 第四十六條 第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ公共團體カ索道事業ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス
- 第四十七條 索道事業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

自動車及索道關係

第四十八條 索道事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人
其ノ他ノ従業員カ其ノ事業ニ關シタル行爲ニ付自己
ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得
ス

第四十九條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ
地方長官之ヲ定ム

第五十條 索道事業ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外索道ヲ設
備セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五十一條 本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第五十三條 本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシ
テ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ許可又
ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十一條 本令ハ專用ニ供スル爲一構内ニ於テ設備スル
索道及電氣力、蒸氣力又ハ内燃力ヲ原動力トセサル索道
ニ之ヲ適用セス但シ地方長官ニ於テ必要アリト認ムルト
キハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ノ全部又ハ一部ヲ之ニ適用
スルコトヲ得

附 則

第五十二條 本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシ
テ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ許可又
ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

○索道事業ノ許可等ニ關スル件

昭和二年九月三日
遞訓令第二號

廳 府 縣

索道事業ノ許可等ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 第一種索道ニ據ル索道事業ニ關シ索道事業規則第

四條若ハ第八條ノ許可又ハ同規則第十條若ハ第二十三條
ノ認可ノ申請ヲ受ケタルトキハ豫メ本大臣ニ稟伺ノ上處
分スヘシ

第二條 第二種索道ニ據ル索道事業ニシテ二府縣以上ニ誇
ルモノニ關シ處分ヲ爲サムトスルトキハ關係府縣知事ニ

協議スヘシ但シ他府縣ニ關係ナキ事項ニ付テハ此ノ限ニ
在ラス

前項ノ場合ニ於テ協議調ハサルトキハ本大臣ニ稟伺ノ上
處分スヘシ

第三條 索道事業規則第五十條ニ依ル索道ノ設備ニ關シテ
モ前二條ニ準シ處理スヘシ

○索道事業ノ許可ニ關スル件

昭和三年十一月二十七日
鐵訓令第二號

廳 府 縣

索道事業ノ許可等ニ關シテハ昭和二年九月逡信省訓令第二
號ニ據リ處理スヘシ但シ索道事業規則第五十條ニ依ル專用
索道ニ付テハ稟伺ヲ要セス

○土地收用法

明 三三、三、六 法二九
改正 大三、同一五
昭二、四、同三九

土地收用法

第一章 總 則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ
收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規
定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各
號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他ノ軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル
事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防
運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下
水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ
他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ

於テ施設スル事業

第二條ノ二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業
ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非サレハ之ヲ
收用又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル
起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ
爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關
係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用ス
ヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又
ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其
ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人
ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在
ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル
期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ

關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之
ヲ準用ス

第七條ノ二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スヘキ
土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用
ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス
場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種
類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ
土地ニ立入リ測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合
ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主
務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起
業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ
之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ
準備ノ爲其ノ土地ニ入リ測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テ
ハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五
日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長

ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ
邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通
知スヘシ

日出前日没後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸
内ニ立入ルコトヲ得ス

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アル
トキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコ
トヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業
者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務
大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ前條ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業
計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請
スヘシ但シ起業者カ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又
ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求ス
ヘシ

第十四條 内務大臣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業
ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使

用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得
前項ノ事業カ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ
宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、
使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知ス
ヘシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス
軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ
主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘ
シ

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ
事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ
市町村長ニ申請スヘシ

第十七條 市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第
二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用
スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ
通知スヘシ

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用
スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ
第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失
フ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作ルコ
トヲ拒ミタルトキ其ノ他ト共ニ調書ヲ作ルコト能ハサ
ルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルヘシ市
町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二
項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地
方長官立會人ヲ指定スヘシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタ
ル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業
者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關
係人ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルト
キハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業
者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差
出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖
面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面
二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類
收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目
收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件

第四章 收用ノ手續

第十九條 內務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ
地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ
之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又
ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所
有者及關係人ニ通知スヘシ

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地
所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ホス虞ナキ場合ヲ除ク
ノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ收用又ハ使用スヘキ
土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收
去スルコトヲ得ス

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ其ノ
土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ
其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入
ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業
者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ
作ルヘシ

ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於
テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三 第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書又ハ
其ノ寫
收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地
所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市
町村長ニ送付スヘシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ
限ニ在ラス

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲
シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨ
リ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審
査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ
爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ
延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若

ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
- 二 損失ノ補償
- 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ道府

縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

- 一 道府縣名譽職參事會員
- 二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員
- 三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見

積り難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ

得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空

間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業

者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人

ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所

有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ

得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定

人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ科料ニ處ス

第七十九條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ五十圓以下ノ科料ニ處ス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ科料ニ之ヲ準用ス

第八十一條 訴願及訴訟 第十章 訴願及訴訟 第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
 第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附 則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
 第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス
 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス
 第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ
 本法ニ依リ町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セザル

地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
 第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定メアルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル
 第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス
 附 則 (昭和二年法律第三九號)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム (昭和二年八月勅令第二七二號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行)
 大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス
 本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴訟ヲ爲ス場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス
 本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

○土地收用法施行令

明三三、三、三一勅九九
 改正 昭、二、八同二七三

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ
 第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ
 障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ
 第三條 起業者カ内務大臣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添附スヘシ
 一 御料地及皇族所有地
 二 國有地
 三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地
 四 寺院境内地
 五 名所、舊蹟及古墳墓
 前項ニ指定スル調書ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ意見ヲ記載スヘシ

土地收用法施行令

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 地方長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ
 第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調書ハ土地調書及物件調書トス
 土地調書ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スヘシ
 一 土地所有ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積並ニ土地所有者ノ名及住所
 二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積
 三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容
 四 調書ヲ作りタル年月日
 五 其ノ他必要ナル事項
 物件調書ニハ收用若ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字並ニ土地ノ番號及地目

土地收用法施行令

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所
 三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容
 四 調書ヲ作りタル年月日
 五 其ノ他必要ナル事項
 物件カ建物ナル場合ニ在リテハ物件調書ニハ前項ニ掲クルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スヘシ
 土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル
 土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル
 調書ニハ調書ヲ作りタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印スヘシ立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スヘシ
 第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ
 第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類
 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス
 第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
 第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
 第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス
 第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル
 高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル
 第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ二等以下ノ運賃ニ於テ、車馬賃（汽船ヲ通セサル水路ノ

船賃ヲ含ム）ハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル
 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス
 第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル
 鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
 第十六條 土地收用法第十九條ノ二及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得
 第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ
 附 則

土地收用法施行令

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鐵道敷設法

大正十一年四月十日
法律第三七號

改正
昭和二年三月
法律第三七號

- 第一條 帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲政府ノ敷設スヘキ豫定鐵道線路ハ別表ニ掲ケル所ニ依ル
- 第二條 政府ハ前條豫定鐵道線路ヲ調査敷設セムトスルトキハ經費ノ豫算ヲ定メ漸次繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ
- 第三條 豫定鐵道線路ニ該當スルモノト雖一地方ノ交通ヲ目的トスルモノニ在リテハ政符ハ地方鐵道トシテ其ノ敷設ヲ免許スルコトヲ得
- 第四條 豫定鐵道線路ヲ變更シ又ハ豫定鐵道線路中新ニ工事ニ著手スルモノヲ定ムルトキハ鐵道會議ノ諮詢ヲ經ヘシ
- 第五條 鐵道會議ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、北海道鐵道敷設法、明治二十七年法律第六號乃至第十號、同年法律第十二號乃至第十五號、明治二十九年法律第七十二號乃至第七十七號

- 十三 秋田縣鷹ノ巣ヨリ阿仁合ヲ經テ角館ニ至ル鐵道
- 十四 秋田縣生保内ヨリ鳩ノ湯附近ニ至ル鐵道
- 十五 秋田縣本莊ヨリ矢島ヲ經テ院内ニ至ル鐵道
- 十六 秋田縣十文字ヨリ檜山臺附近ニ至ル鐵道
- 十七 宮城縣氣仙沼ヨリ津谷、志津川ヲ經テ前谷地ニ至ル鐵道及津谷ヨリ分岐シ佐沼ヲ經テ田尻ニ至ル鐵道
- 十八 宮城縣松島ヨリ石卷ヲ經テ女川ニ至ル鐵道
- 十九 宮城縣仙臺ヨリ古川ニ至ル鐵道
- 二十 宮城縣仙臺ヨリ山形縣山寺ヲ經テ山形ニ至ル鐵道及宮城縣川崎附近ヨリ分岐シテ山形縣神町ニ至ル鐵道
- 二十一 宮城縣長町ヨリ青根附近ニ至ル鐵道
- 二十二 宮城縣白石ヨリ山形縣上ノ山ニ至ル鐵道
- 二十三 山形縣鶴岡ヨリ大鳥ニ至ル鐵道
- 二十四 山形縣楯岡ヨリ寒河江ニ至ル鐵道
- 二十五 山形縣左澤ヨリ荒砥ニ至ル鐵道
- 二十六 山形縣米澤ヨリ福島縣喜多方ニ至ル鐵道
- 二十七 福島縣福島ヨリ宮城縣丸森ヲ經テ福島縣中村ニ至ル鐵道及丸森ヨリ分岐シテ白石ニ至ル鐵道
- 二十八 福島縣川俣ヨリ浪江ニ至ル鐵道
- 二十九 福島縣柳津ヨリ只見ヲ經テ新潟縣小出ニ至ル鐵道

明治三十年法律第十一號、同年法律第三十二號、同年法律第三十三號及同年法律第三十五號ハ之ヲ廢止ス
本法施行前鐵道建設費豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道線路ハ本法ニ依リ敷設スルモノト看做ス
(別表)

本州ノ部

- 一 青森縣田名部ヨリ大畑ヲ經テ大間ニ至ル鐵道
- 二 青森縣青森ヨリ三厩、小泊ヲ經テ五所川原ニ至ル鐵道
- 三 青森縣弘前ヨリ田代ニ至ル鐵道
- 四 青森縣三戸ヨリ七戸ヲ經テ千曳ニ至ル鐵道
- 五 青森縣三戸ヨリ秋田縣毛馬内ヲ經テ花輪ニ至ル鐵道
- 六 岩手縣久慈ヨリ小本ヲ經テ宮古ニ至ル鐵道
- 七 岩手縣山田ヨリ釜石ヲ經テ大船渡ニ至ル鐵道
- 八 岩手縣小島谷ヨリ葛巻ヲ經テ裏野附近ニ至ル鐵道及落合附近ヨリ分岐シテ茂市ニ至ル鐵道
- 八ノ二 岩手縣花卷ヨリ遠野ヲ經テ釜石ニ至ル鐵道
- 九 岩手縣川井ヨリ遠野ヲ經テ高田ニ至ル鐵道
- 十 岩手縣一戸ヨリ荒屋ニ至ル鐵道
- 十一 岩手縣栗石ヨリ川尻ニ至ル鐵道
- 十二 岩手縣一ノ關ヨリ槻木附近ニ至ル鐵道

- 道及只見ヨリ分岐シテ古町ニ至ル鐵道
- 三十 福島縣須賀川ヨリ長沼ニ至ル鐵道
- 三十一 福島縣平ヨリ小名濱ニ至ル鐵道
- 三十二 福島縣石川ヨリ植田ニ至ル鐵道
- 三十三 栃木縣今市ヨリ高德ヲ經テ福島縣田島ニ至ル鐵道及高德ヨリ分岐シテ矢板ニ至ル鐵道
- 三十四 栃木縣日光ヨリ足尾ニ至ル鐵道
- 三十五 栃木縣鹿沼ヨリ栃木ヲ經テ茨城縣古河ニ至ル鐵道
- 三十六 栃木縣茂木ヨリ烏山ヲ經テ茨城縣大子ニ至ル鐵道及栃木縣大桶附近ヨリ分岐シテ黒磯ニ至ル鐵道
- 三十七 栃木縣市塙ヨリ寶積寺ニ至ル鐵道
- 三十八 茨城縣水戸ヨリ阿野澤ヲ經テ東野附近ニ至ル鐵道及阿野澤ヨリ分岐シテ栃木縣茂木ニ至ル鐵道
- 三十九 茨城縣水戸ヨリ鉦田ヲ經テ鹿島ニ至ル鐵道
- 四十 茨城縣常陸大宮ヨリ太田ヲ經テ大甕ニ至ル鐵道
- 四十一 茨城縣勝田ヨリ上菅谷ニ至ル鐵道
- 四十二 茨城縣高濱ヨリ玉造ヲ經テ延方ニ至ル鐵道及玉造ヨリ分岐シテ鉦田ニ至ル鐵道
- 四十三 茨城縣土浦ヨリ水海道、境、埼玉縣久喜、鴻巣、坂戸ヲ經テ飯能ニ至ル鐵道及水海道ヨリ分岐シテ佐貫

鐵道敷設法

- ニ至ル鐵道並境ヨリ分岐シテ古河ニ至ル鐵道
- 四十四 茨城縣土浦ヨリ江戸崎ニ至ル鐵道
- 四十五 茨城縣古河ヨリ栃木縣佐野ニ至ル鐵道
- 四十六 千葉縣佐原ヨリ小見川ヲ經テ松岸ニ至ル鐵道及小見川ヨリ分岐シテ八日市場ニ至ル鐵道
- 四十七 千葉縣八幡宿ヨリ大多喜ヲ經テ小湊ニ至ル鐵道
- 四十八 千葉縣木更津ヨリ久留里、大多喜ヲ經テ大原ニ至ル鐵道
- 四十九 千葉縣上總湊ヨリ鴨川ニ至ル鐵道
- 五十 千葉縣船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道
- 五十一 千葉縣我孫子ヨリ埼玉縣大宮ニ至ル鐵道
- 五十二 東京府八王子ヨリ埼玉縣飯能ヲ經テ群馬縣高崎ニ至ル鐵道
- 五十三 東京府大崎ヨリ神奈川縣長津田ヲ經テ松田ニ至ル鐵道
- 五十四 神奈川縣橫須賀ヨリ浦賀ニ至ル鐵道
- 五十五 群馬縣澁川ヨリ中之條ヲ經テ長野原ニ至ル鐵道
- 五十六 新潟縣來迎寺ヨリ小千谷ヲ經テ岩澤ニ至ル鐵道
- 五十七 新潟縣白山ヨリ新發田ニ至ル鐵道
- 五十八 佐渡國夷ヨリ河原田ヲ經テ相川ニ至ル鐵道

- 五十七 長野縣豐野ヨリ飯山ヲ經テ新潟縣十日町ニ至ル鐵道及飯山ヨリ分岐シテ屋代ニ至ル鐵道
- 五十八 長野縣小海附近ヨリ山梨縣小淵澤ニ至ル鐵道
- 五十九 長野縣松本ヨリ岐阜縣高山ニ至ル鐵道
- 六十 長野縣辰野ヨリ飯田ヲ經テ静岡縣濱松ニ至ル鐵道及飯田ヨリ分岐シテ三留野ニ至ル鐵道
- 六十一 静岡縣熱海ヨリ下田、松崎ヲ經テ大仁ニ至ル鐵道
- 六十二 静岡縣御殿場ヨリ山梨縣吉田ヲ經テ静岡縣大宮ニ至ル鐵道及吉田ヨリ分岐シテ大月ニ至ル鐵道
- 六十三 静岡縣掛川ヨリ二俣、愛知縣大野、静岡縣蒲川、愛知縣武節ヲ經テ岐阜縣大井ニ至ル鐵道及大野附近ヨリ分岐シテ長篠ニ至ル鐵道並境浦川附近ヨリ分岐シテ静岡縣佐久間附近ニ至ル鐵道
- 六十四 富山縣猪谷ヨリ岐阜縣船津ニ至ル鐵道
- 六十五 富山縣八尾ヨリ福光ヲ經テ石川縣金澤附近ニ至ル鐵道
- 六十六 富山縣水見ヨリ石川縣羽咋ニ至ル鐵道
- 六十七 石川縣羽咋ヨリ高濱ヲ經テ三井附近ニ至ル鐵道
- 六十八 石川縣穴水ヨリ宇出津ヲ經テ飯田ニ至ル鐵道
- 六十九 愛知縣千種ヨリ舉母ヲ經テ武節ニ至ル鐵道

- 七十 愛知縣豐橋ヨリ伊良湖岬ニ至ル鐵道
- 七十一 愛知縣岡崎ヨリ舉母ヲ經テ岐阜縣多治見ニ至ル鐵道
- 七十二 愛知縣武豐ヨリ師崎ニ至ル鐵道
- 七十三 愛知縣名古屋ヨリ岐阜縣太田ニ至ル鐵道
- 七十四 岐阜縣中津川ヨリ下呂附近ニ至ル鐵道
- 七十五 岐阜縣大垣ヨリ福井縣大野ヲ經テ石川縣金澤ニ至ル鐵道
- 七十六 三重縣四日市ヨリ岐阜縣關ヶ原ヲ經テ滋賀縣木ノ本ニ至ル鐵道
- 七十七 滋賀縣貴生川ヨリ京都府加茂ニ至ル鐵道
- 七十八 滋賀縣濱大津ヨリ高城ヲ經テ福井縣三宅ニ至ル鐵道及高城ヨリ分岐シテ京都府二條ニ至ル鐵道
- 七十九 京都府園部ヨリ兵庫縣篠山附近ニ至ル鐵道
- 八十 京都府殿田附近ヨリ福井縣小濱ニ至ル鐵道
- 八十一 京都府山田ヨリ兵庫縣出石ヲ經テ豐岡ニ至ル鐵道
- 八十二 奈良縣櫻井ヨリ榛原、三重縣名張ヲ經テ松阪ニ至ル鐵道及名張ヨリ分岐シテ伊賀上野附近ニ至ル鐵道
- 八十三 奈良縣五條ヨリ和歌山縣新宮ニ至ル鐵道
- 八十四 兵庫縣谷川ヨリ西脇、北條ヲ經テ姫路附近ニ至ル鐵道

- 八十四 兵庫縣姫路ヨリ岡山縣江見ヲ經テ津山ニ至ル鐵道
- 八十五 兵庫縣上郡ヨリ佐用ヲ經テ鳥取縣智頭ニ至ル鐵道
- 八十六 兵庫縣有年ヨリ岡山縣伊部ヲ經テ西大寺附近ニ至ル鐵道
- 八十七 淡路國岩屋ヨリ洲本ヲ經テ福良ニ至ル鐵道
- 八十八 鳥取縣郡家ヨリ若櫻ヲ經テ兵庫縣八鹿附近ニ至ル鐵道
- 八十九 岡山縣勝山ヨリ鳥取縣倉吉ニ至ル鐵道
- 九十 岡山縣倉敷ヨリ茶屋町ニ至ル鐵道
- 九十一 廣島縣福山ヨリ府中、三次、鳥根縣來島ヲ經テ出雲今市ニ至ル鐵道及來島附近ヨリ分岐シテ木次ニ至ル鐵道
- 九十二 廣島縣吉田口附近ヨリ大朝附近ニ至ル鐵道
- 九十三 廣島縣三原ヨリ竹原ヲ經テ吳ニ至ル鐵道
- 九十四 廣島縣廣島附近ヨリ加計ヲ經テ鳥根縣濱田附近ニ至ル鐵道
- 九十五 鳥根縣瀧原附近ヨリ大森ヲ經テ石見大田ニ至ル鐵道

鐵道敷設法

鐵道敷設法

- 九十六 山口縣岩國ヨリ島根縣日原ニ至ル鐵道
- 九十七 山口縣岩國ヨリ玖珂ヲ經テ徳山ニ至ル鐵道
- 九十八 山口縣徳佐ヨリ大井ニ至ル鐵道
- 九十九 山口縣小郡ヨリ大田ヲ經テ萩ニ至ル鐵道及大田附近ヨリ分岐シテ於福ニ至ル鐵道
- 四國ノ部
- 百 香川縣高松ヨリ琴平ニ至ル鐵道
- 百一 愛媛縣川之江ヨリ徳島縣阿波池田附近ニ至ル鐵道
- 百二 愛媛縣松山附近ヨリ高知縣越知ヲ經テ佐川ニ至ル鐵道
- 百三 愛媛縣八幡濱ヨリ卯ノ町、宮野下、宇和島ヲ經テ高知縣中村ニ至ル鐵道及宮野下ヨリ分岐シテ高知縣中村ニ至ル鐵道
- 百四 愛媛縣大洲附近ヨリ近永附近ニ至ル鐵道
- 百五 高知縣江川崎附近ヨリ窪川ヲ經テ崎山附近ニ至ル鐵道
- 百六 高知縣川内附近ヨリ高岡ヲ經テ宇佐ニ至ル鐵道
- 百七 高知縣後免ヨリ安藝、徳島縣日和佐ヲ經テ古庄附近ニ至ル鐵道
- 九州ノ部
- 百八 高知縣山田ヨリ葦野附近ニ至ル鐵道

三九四

- 百九 福岡縣博多ヨリ佐賀縣山本ニ至ル鐵道
- 百十 福岡縣篠栗ヨリ長尾附近ニ至ル鐵道
- 百十一 福岡縣久留米ヨリ熊本縣山鹿ヲ經テ宮原附近ニ至ル鐵道
- 百十二 佐賀縣岸嶽ヨリ伊萬里ニ至ル鐵道
- 百十三 佐賀縣佐賀ヨリ福岡縣矢部川、熊本縣限府ヲ經テ肥後大津ニ至ル鐵道及限府ヨリ分岐シテ大分縣附近ニ至ル鐵道
- 百十四 佐賀縣肥前山口附近ヨリ鹿島ヲ經テ長崎縣諫早ニ至ル鐵道
- 百十四ノ二 長崎縣喜々津ヨリ矢上ヲ經テ浦上ニ至ル鐵道
- 百十五 大分縣中津ヨリ日田ニ至ル鐵道
- 百十六 大分縣杵築ヨリ富來ヲ經テ宇佐附近ニ至ル鐵道
- 百十七 大分縣幸崎ヨリ佐賀關ニ至ル鐵道
- 百十八 大分縣白杵ヨリ三重ニ至ル鐵道
- 百十九 熊本縣高森ヨリ宮崎縣三田井ヲ經テ延岡ニ至ル鐵道
- 百二十 熊本縣高森ヨリ瀧水附近ニ至ル鐵道
- 百二十一 熊本縣宇土ヨリ濱町ヲ經テ宮崎縣三田井附近ニ至ル鐵道

- 百二十二 熊本縣湯前ヨリ宮崎縣杉安ニ至ル鐵道
- 百二十三 宮崎縣小林ヨリ宮崎ニ至ル鐵道
- 百二十四 鹿兒島縣山野ヨリ熊本縣水俣ニ至ル鐵道
- 百二十五 鹿兒島縣國分ヨリ宮崎縣都城ニ至ル鐵道
- 百二十六 鹿兒島縣國分ヨリ高須、志布志、宮崎縣福島ヲ經テ内海附近ニ至ル鐵道及高須ヨリ分岐シテ鹿兒島縣川北附近ニ至ル鐵道
- 百二十七 鹿兒島縣鹿兒島附近ヨリ指宿、枕崎ヲ經テ加世田ニ至ル鐵道
- 北海道ノ部
- 百二十八 渡島國函館ヨリ釜谷ニ至ル鐵道
- 百二十九 渡島國上磯ヨリ木古内ヲ經テ江差ニ至ル鐵道
- 及木古内ヨリ分岐シテ福山ニ至ル鐵道
- 百三十 膽振國八雲ヨリ後志國利別ニ至ル鐵道
- 百三十一 膽振國京極ヨリ喜茂別、壯瞥ヲ經テ紋鼈ニ至ル鐵道
- 百三十二 膽振國京極ヨリ留壽都ヲ經テ壯瞥ニ至ル鐵道
- 百三十三 膽振國苦小牧ヨリ鷗川、日高國浦河、十勝國廣尾ヲ經テ帶廣ニ至ル鐵道
- 百三十四 膽振國鷗川ヨリ石狩國金山ニ至ル鐵道及「ペンケオロロブナイ」附近ヨリ分岐シテ石狩國登川ニ至ル鐵道

鐵道敷設法

三九五

- 百三十五 石狩國札幌ヨリ石狩ヲ經テ天鹽國増毛ニ至ル鐵道
- 百三十六 石狩國札幌ヨリ當別ヲ經テ沼田ニ至ル鐵道
- 百三十七 石狩國白石ヨリ膽振國廣島ヲ經テ追分ニ至ル鐵道及廣島ヨリ分岐シテ苦小牧ニ至ル鐵道
- 百三十八 石狩國比布ヨリ下愛別附近ニ至ル鐵道
- 百三十九 石狩國「ルベシベ」ヨリ北見國瀧ノ上ニ至ル鐵道
- 百四十 日高國高江附近ヨリ十勝國帶廣ニ至ル鐵道
- 百四十一 十勝國上士幌ヨリ石狩國「ルベシベ」ニ至ル鐵道
- 百四十二 十勝國芽室ヨリ「トムラウシ」附近ニ至ル鐵道
- 百四十三 天鹽國名寄ヨリ石狩國雨龍ヲ經テ天鹽國羽幌ニ至ル鐵道
- 百四十四 天鹽國羽幌ヨリ天鹽ヲ經テ下沙流別附近ニ至ル鐵道
- 百四十五 北見國興部ヨリ幌別、枝幸ヲ經テ濱頓別ニ至ル鐵道及幌別ヨリ分岐シテ小頓別ニ至ル鐵道
- 百四十六 北見國中湧別ヨリ常呂ヲ經テ網走ニ至ル鐵道
- 百四十七 北見國留邊蘂ヨリ伊頓武華ニ至ル鐵道
- 百四十八 釧路國釧路ヨリ北見國相生ニ至ル鐵道
- 百四十九 根室國厚床附近ヨリ標津ヲ經テ北見國斜里ニ至ル鐵道

○鐵道國有法

明治三十九年三月三十一日
法律第一七號
大正九年八月
法律第四七號

改正

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス
第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十八年迄ノ間ニ於テ本法ノ規定ニ依リ左ニ掲クル私設鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- 一 北海道炭礦鐵道株式會社
- 一 北海道鐵道株式會社
- 一 日本鐵道株式會社
- 一 岩越鐵道株式會社
- 一 北越鐵道株式會社
- 一 甲武鐵道株式會社
- 一 總武鐵道株式會社
- 一 辰總鐵道株式會社
- 一 七尾鐵道株式會社
- 一 關西鐵道株式會社
- 一 參宮鐵道株式會社

- 一 京都鐵道株式會社
- 一 西成鐵道株式會社
- 一 阪鶴鐵道株式會社
- 一 山陽鐵道株式會社
- 一 德島鐵道株式會社
- 一 九州鐵道株式會社

前項ニ掲ケタル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道ヲ買收スルコトヲ得ス
第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出殘額並收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
第五條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス

一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額
二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シタル金額但シ借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費、賞與金及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第六條 借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス
會社力鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ鐵道建設規程ニ依リ期限内ニ改築若ハ改造ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス
借入金ノ支出ハ前項ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條 會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ運輸開始後六營業年度ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以

テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ
第九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ政府ハ審査委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ
一 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキ
二 前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ
審査委員ノ決定ニ對シ不服アルトキハ會社ハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得
審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十條 買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス
第十一條 會社力買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ
第十二條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ五箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス
會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス
買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル清算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ支辨ス

從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ
 前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得
 第十四條 政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス
 第十五條 削除
 第十六條 削除
 第十七條 第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル
 前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム
 第十八條 買收ヲ受ケヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル
 第九條乃至第十四條ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 附 則
 第二條ニ掲クル會社ノ本法發布以後ニ於ケル貯藏物品ノ購入、建設費ノ増減及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但シ政府ハ其ノ額ヲ査定シ又ハ相當ノ補償ヲ徵シテ之ヲ承繼ス

ルコトヲ得

○道路法

大正八年四月十一日
 法律第五八號
 改正
 大正十一年三月二十日
 法律第三號

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依リ認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ
 第二條 左ニ掲クルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
 二 道路ニ附屬スル溝、並木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ
 第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ
 本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス

道 路 法

第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ

第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ

第六條 道路ヲ構成スル敷設其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定
 第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 國 道
- 二 府縣道
- 三 市 道
- 四 町村道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス
 一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
 二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

- 第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス
 - 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
 - 二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
 - 三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線
 - 七 數市町村ヲ連絡スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
 - 八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線
 - 九 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線
- 第十二條 削除(大正十一年法律第三號ヲ以テ)

- 第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス
- 第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス
- 第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聽キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス
- 第十七條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線力重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス
- 第十八條 第三章 道路ノ管理
- 第十九條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス
- 第二十條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得
- 第二十一條 道路ト他ノ工作物ト兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス
- 第二十二條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ

- 主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ
- 第二十一條 道路ト他ノ工作物ト兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工作物ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル
- 第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工

事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得

- 第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
- 第二十七條 前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
- 第二十九條 管理ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得
- 第三十條 前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
- 第三十一條 管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十二條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用力法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メ

タルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得
第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス第二十二條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者

スル公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設クル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス
前項ノ費用負擔者カ公共團體ナル場合ニ於テ之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲スモノトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條ノ規定ニ依ル負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲必要アル時ハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入、使用、使役又ハ收用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五章 監督及罰則

第五十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ

三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依ル許可ヲ得タルトキ

認ヲ爲スコト

六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト

九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理ニ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

可ヲ得タルトキ

四 道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキ

五 公益上必要ト認ムルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ主務大臣力第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト

三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可又ハ承認ヲ得タルトキ

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得スシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者

二 許可ヲ得スシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依ル管理者ノ命ニ從ハサル者

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササル者

第六節 訴訟及訴訟

第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケサル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第七章 雜則

第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス

第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認

定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件竝材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス

第六十三條 左ニ掲クル法令ノ規定ハ本法ニ依ル道路ニ關シ之ヲ適用セス

- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條

五 水路測量標條例第二條

六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條

八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條

九 砂防法第八條及第十六條

十 私設鐵道法第四十二條

十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條

十二 電氣事業法第九條

十三 大正三年法律第三十七號

附則

第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル法令ハ之ヲ廢止ス

一 明治五年第三百二十五號布告

二 明治六年第四百十六號布告

三 明治六年第四百十三號達

四 明治九年第六十號達

五 明治十八年第一號布達

六 明治二十年勅令第二十八號

第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件

ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 大正十一年三月二十日法律第三號

本法中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四〇七

○道路法施行期日ノ件

大正八年十一月五日
勅令第四五九號

道路法ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年八月十七日
勅令第三八三號

大正十一年法律第三號中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○道路法施行令

大 八、一一、四 勅四六〇
改正 大一一、八 同三八四
同 一五、六 同二四一

第一條 (削除)

第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣道ニ付テハ府縣會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル諮問ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル府縣道ニ付テハ府縣會及市會ニ之ヲ諮問スヘシ

第三條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第四條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

道路法施行令

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ

第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ市役所ノ所在地ヲ國道又ハ府縣道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス

市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事之ヲ定ム

第九條 道路元標ハ各市町村ニ一箇ヲ置ク

道路元標ノ様式ハ内務大臣之ヲ定ム

道路元標ハ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ

第十條 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ

第十條ノ二 内務大臣道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ストキハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道路ノ路線名、區間及工事開始ノ期日ヲ告示スヘシ

前項ノ國道ノ新設又ハ改築ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ終了スルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ

第十一條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ内務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ

第十二條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋錢又ハ渡船錢ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十三條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船錢ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 軍隊
- 二 演習中ノ軍人軍屬
- 三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人
- 四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼ニ參會スル爲通行スル軍人又ハ簡閱點呼令狀配達人
- 五 徵發ニ關スル令書配達人
- 六 徵發人夫及其ノ引率人

廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

- 一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣
- 二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣
- 第二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
- 二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ亙ル路線

七 徵發物件及其ノ運搬人

八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏

九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人

十 水災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫

十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童

十二 受持区内ニ勤務中ノ修路工夫

第十四條 橋錢又ハ渡船錢ヲ徵收スル者ハ徵收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ

一 設置者

二 橋錢又ハ渡船ノ額

三 徵收期間

四 橋錢又ハ渡船錢ヲ徵收セサル場合

第十五條 道路臺帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ

利害關係人ハ道路臺帳ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政

ヲ認定スルコト

三 道路法第二十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト

四 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト

五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト

第二十一條 (削除)

二十二條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 北海道ニ於テ支廳ノ所在地ヲ地方費道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

北海道ノ道路ノ路線ノ認定者又ハ管理者町村長ナルトキハ第一次ニ支廳長、第二次ニ道廳長官、第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス

道路法施行令

ル道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ道ニ費用ヲ負擔セシムルコト

前三項ニ規定スルモノノ外北海道ニ付テハ本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ヲ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ適用ス

附 則

第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年四月一日ヨリ施行）

第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス郡道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限り第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縦覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得
前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置、道路線ノ交叉點及兩端ノ地

○道路構造令

大正八年十二月六日
內務省令第二四號

改正
大正十一年
第二六號

道路法第三十一條ノ規定ニ依リ道路ノ構造ニ關スル件左ノ通定ム

道路構造令

第一條 國道ノ有效幅員ハ四間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ一間以內縮小スルコトヲ得

第二條 府縣道ノ有效幅員ハ三間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ三尺以內縮小スルコトヲ得

第三條 主要ナル市道ノ有效幅員ハ三間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ一間以內縮小スルコトヲ得

第四條 主要ナル町村道ノ有效幅員ハ二間以上ト爲スヘシ

山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り其ノ幅員ヲ三尺以內縮小スルコトヲ得

第五條 前各條第二項ノ規定ニ依リ前各條第一項ニ規定ス

道路構造令

番若ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番調書ヲ作製シ平面圖ニ添付スルコトヲ妨ケス

第二十八條 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

附 則（大正十年勅令第三八四號）

本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

ル最小幅員ヲ縮小スルトキハ相當距離毎ニ待避所ヲ設クヘシ

第六條 國道ノ勾配ハ三十分ノ一、府縣道ノ勾配ハ二十五分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス

特殊ノ箇所ニ於テハ前項勾配ヲ十五分ノ一迄、山地ニシテ已ムヲ得サル箇所ニ於テハ長四十間以內ニ限り十分ノ一迄ト爲スコトヲ得

道路ノ勾配力變移スル箇所ニ於テハ相當ノ縱斷曲線ヲ設クヘシ

坂路長キトキハ相當ノ距離毎ニ五十分ノ一ヨリ緩ナル勾配ヲ有スル相當ノ區間ヲ設クヘシ

第七條 國道及府縣道ノ屈曲部中心線ノ半徑ハ三十間以上ト爲スヘシ但シ特殊ノ箇所ニ於テハ六間迄之ヲ縮小スルコトヲ得

人家連檐又ハ連檐スヘキ箇所ノ屈曲部ニ於ケル凸角ハ相當之ヲ剪除シ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第八條 國道及府縣道ノ車道ノ路面ノ構造ハ車輪ノ輪帶幅一寸ニ付百貫ノ荷重ニ耐フルヲ標準ト爲スヘシ歩車道ヲ區別セサル箇所ニ於テハ交通ノ情勢ニ依リ道路幅員ノ一

道路構造令

四一四

部ニ限り前項ニ規定スル構造ニ依ラサルコトヲ得

第九條 國道及府縣道ノ側溝ノ深及底幅ハ一尺以上ト爲スヘシ

第十條 國道及府縣道ノ路端ノ高ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外水流水面ノ最高水位ヨリ一尺以上ト爲スヘシ

第十一條 國道及府縣道ノ隧道ノ有效幅員ハ三間半以上ト爲スヘシ但シ接續道路ノ有效幅員ニ二尺ヲ加ヘタル幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

隧道内ノ高ハ路面ヨリ十五尺以上ト爲スヘシ但シ特殊ノ箇所ニ限り十三尺迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十二條 國道及府縣道ノ橋梁ノ有效幅員ハ橋長四間未満ノ場合ハ道路ノ有效幅員ト同一ト爲シ橋長四間以上ノ場合ハ三間以上ト爲スヘシ但シ接續道路ノ有效幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十三條 國道及府縣道ノ橋梁ハ左ニ掲クモノノ通過ニ耐フル構造ト爲スヘシ

橋面一平方尺ニ付十二貫ニ相當スル群衆但シ徑間ニ應シ相當輕減スルコトヲ得

國道ニ在リテハ二千百貫ノ車輛、十二米噸輾壓機、府縣道ニ在リテハ千七百貫ノ車輛但シ主要ナル區間ニ於テハ國道ニ準スヘシ

第十四條 第十一條第二項ノ規定ハ國道及府縣道中上部横溝ヲ有スル橋梁ニ之ヲ準用ス道路力橋下ヲ通過スル場合ニ付亦同シ

第十五條 前九條中府縣道ニ關スル規定ハ主要ナル市道及町村道ニ關シ之ヲ準用ス

第十六條 本令中府縣道ニ關スル規定ハ地方費道ニ郡道又ハ市道ニ關スル規定ハ主要ナル地方費道又ハ區道ニ關シ之ヲ適用ス但シ地方費道ノ有效幅員ハ山地其ノ他特殊ノ箇所ニ限り第二條第一項ニ規定スル幅員ヲ一間以内縮小スルコトヲ得

第十七條 北海道ニ於ケル橋梁ノ有效幅員ハ橋長四間以上ノ木橋ニ限り國道ニ在リテハ十五尺迄地方費道又ハ主要ナル準地方費道、區道、町村道ニ在リテハ十尺迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十八條 交通ノ情勢ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ前各條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十九條 街路ノ構造ニ付テハ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 大正十一年内務省令第二六號

本令ハ大正十一年法律第三號第八條、第十一條、第十二條

及第六十一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨ

リ之ヲ施行ス(大正十二年四月一日施行)

○街路構造令

大正八年十二月六日
内務省令第二五號

道路法第三十一條ノ規定ニ依リ街路ノ構造ニ關スル件左ノ
通定ム

街路構造令

- 第一條 本令ニ於テ街路ト稱スルハ地方長官ノ指定スル市
内及市ニ準スヘキ地域内ニ於ケル道路ヲ謂フ
- 第二條 本令ニ於テ廣路ト稱スルハ二十四間以上、一等大
路ト稱スルハ十二間以上、二等大路ト稱スルハ六間以上
一等小路ト稱スルハ四間以上、二等小路ト稱スルハ一
半以上ノ幅員ヲ有スル街路ヲ謂フ
- 第三條 街路ハ車道及歩道ニ區別スヘシ但シ一等小路及二
等小路ニ在リテハ之ヲ區別セサルコトヲ得
- 街路ノ狀況ニ依リ遊歩道ヲ設ケタルトキハ之ヲ歩道ニ兼
用スルコトヲ得
- 廣路ニハ必要アルトキハ高速車道又ハ自轉車道ヲ設クヘ
シ一等大路ニ付亦同シ
- 第四條 街路ノ各側歩道ノ幅員ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外其
ノ街路ノ幅員ノ六分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

- 第五條 車道ノ勾配ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外三十分ノ一ヨ
リ急ナルコトヲ得ス
- 第六條 街路ノ屈曲部ニ曲線ヲ設クルトキハ特殊ノ箇所ヲ
除クノ外其ノ中心線ノ半徑ハ五十間以上ト爲スヘシ
- 第七條 主要ナル街路ノ路面ハ第三條ニ規定スル區別ニ從
ヒ適當ナル材料ヲ以テ之ヲ鋪裝スヘシ
- 第八條 車道ハ鋪裝ノ種類ニ應シ路面ノ排水ニ支障ナキ限
度ニ於テ緩ナル横斷勾配ヲ附スヘシ
- 側歩道ハ特殊ノ箇所ヲ除クノ外車道ニ向ヒ相當ノ横斷勾
配ヲ附スヘシ
- 第九條 歩道ハ車道ヨリ相當之ヲ高クシ車道側ノ境界ニハ
縁石ヲ設クヘシ
- 車道ノ兩側ニハ街渠ヲ設クヘシ
- 特殊ノ箇所ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
- 第十條 街路ノ交會、屈曲其ノ他ノ箇所ニシテ交通上必要
アル場合ニ於テハ廣場ヲ設クヘシ
- 第十一條 交通上必要アル箇所ノ街角ハ相當之ヲ翦除スヘ
シ
- 街角ニ於ケル歩道ノ外側ニハ相當ノ曲線ヲ設クヘシ
- 十字街、丁字街其ノ他ノ箇所ニシテ交通上必要アル場合
ニ於テハ安全地帯又ハ連絡地下道ヲ設クヘシ

第十二條 橋詰ニ於ケル街路ノ幅員ハ必要ニ應シ相當之ヲ
擴大スヘシ

第十三條 遊歩道ニハ並木ヲ植栽スヘシ交通上支障ナキ場
合ニ於テハ歩道ニ付亦同シ

街路ノ狀況ニ依リ遊歩道及歩道ノ鋪裝ノ一部ヲ縮小シ之
ヲ植樹帶、樹苑、花苑又ハ芝生ト爲スコトヲ得廣場ニ付
亦同シ

廣路及一等大路ニハ必要アルトキハ植樹帶ヲ設クヘシ

第十四條 隧道ノ有效幅員ハ六間以上ト爲スヘシ但シ接續
街路ノ幅員迄之ヲ縮小スルコトヲ得

第十五條 橋梁ノ有效幅員ハ橋長三十間以上ノモノニ在リ
テハ二等大路以上ハ街路ノ幅員ノ三分ノ二以上、一等小
路ハ四間以上ト爲シ其ノ他ノモノニ在リテハ街路ノ幅員
ト同一ト爲スヘシ

第十六條 主要ナル橋梁ハ不燃質耐久材料ヲ以テ之ヲ築造
スヘシ

第十七條 橋梁ハ左ニ掲クルモノノ通過ニ耐フル構造ト爲
スヘシ
橋面一平方尺ニ付十五貫ニ相當スル群衆但シ徑間ニ應シ
相當輕減スルコトヲ得
三千貫ノ車輛、十五米噸輾壓機

第十八條 交通ノ情勢ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ前各條
ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附 則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○道路工事執行令

大正九年十一月八日
内務省令第三六號

道路法第三十一條ノ規定ニ依リ道路ノ工事施行方法ニ關スル件左ノ通定ム

道路工事執行令

- 第一條 道路工事執行ノ方法ハ直營及請負トス
- 第二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ直營トナスヘシ
 - 一 請負ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ請負ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 請負契約ヲ締結スルコト能ハサルトキ
 - 四 特ニ直營ト爲スノ必要アリト認ムルトキ
- 第三條 請負ニ付セムトスルトキハ一般競争入札ニ付スヘシ
- 第四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競争入札ニ付スルコトヲ得
 - 一 一般競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ一般競争入札ニ付スルノ暇ナキ時
 - 三 一般競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

- 四 特ニ指名競争入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ
- 第五條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 一 競争入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ
 - 二 急施ヲ要シ競争入札ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 競争入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ
 - 四 豫定價格國道、府縣道、地方費道又ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル市ノ市道ニ在リテハ二千圓未満郡道、準地方費道、道路法第十七條但書ノ規定ニ依ラサル市ノ市道又ハ區道ニ在リテハ千圓未満町村道ニ在リテハ五百圓未満ナルトキ
 - 五 競争入札ニ付スルコト能ハサルトキ
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ入札人若ハ請負人又ハ其ノ代理人トナルコトヲ得ス
 - 一 無能力者
 - 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者
 - 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 四 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
 - 五 責付又ハ保釋中ノ者

六 入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサル者

道路管理者ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ト請負契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第七條 一般競争入札ハ入札期日ヨリ五日前入札ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ

第八條 入札人ハ左ニ掲ケル要件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル學識經驗ヲ有スル技術者ヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノニ在リテハ此限ニ在ラズ

一 引續キ二年以上土木請負業ニ従事スルコト

二 其ノ他地方長官ノ定ムル要件

第九條 入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ豫定價格二千圓未満ノ工事ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ之ヲ無効トス

- 一 本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ道路管理者ノ定ムル入札條件ニ違反シタルトキ
- 二 入札人又ハ其ノ代理人ニ以上ノ入札ヲ爲シタルトキ
- 三 入札人協定シテ入札ヲ爲シタルトキ
- 四 入札ニ際シ不正ノ行爲アリタルトキ

第十一條 入札人中豫定價格以内ニシテ豫定價格ノ三分ノ二ヲ下ラサル最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札人トス但シ設計附入札ニ在リテハ設計及入札金額ニ依リ落札人ヲ定ム

同一ノ入札アリタルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

第十二條 落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ道路管理者ト請負契約ヲ締結シ契約書ヲ作成スヘシ

落札人前項ノ期間内ニ請負契約ヲ締結セサルトキハ落札ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條 請負人ハ請負金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競争入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ請負契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十四條 入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券、其ノ他道路管理者ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月市場價格ノ十分ノ八ヲ以テ之ヲ換算ス

- 第十五條 入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付ス
- 契約保證金ハ工事完成後之ヲ還付ス但シ契約ニ依リ擔保義務終了迄其ノ全部又ハ一部ヲ留保スルコトヲ得
- 第十六條 請負人ハ道路管理者ノ承諾ヲ得シテ工事ノ執行ヲ他人ニ委託スルコトヲ得ス
- 第十七條 請負人ハ工事ノ執行ニ付道路管理者ノ指揮監督ニ從フヘシ
- 第十八條 請負人ハ工事竣功シタルトキ道路管理者ノ檢査ヲ受クヘシ
- 第十九條 請負人天災事變其ノ他正當ノ事由ニ依リ契約期間内ニ工事ヲ竣功スルコト能ハサルトキハ道路管理者ニ期間ノ延長ヲ求ムルコトヲ得
- 第二十條 契約期間内ニ工事ヲ竣功セサルトキハ遅延日數一日ニ付請負金額千分ノ一ノ違約金ヲ徴收ス
- 前項ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ控除ス
- 第二十一條 左ニ掲クル場合ニ於テハ道路管理者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得
 - 一 契約期間内ニ工事竣功ノ見込ナキトキ
 - 二 工事ノ執行ニ付不正ノ行爲アリタルトキ
 - 三 正當ノ事由ナクシテ管理者ノ指揮監督ニ從ハサルト

第二十七條 本令ハ工事ニ要スル物件ノ購入、借入又ハ勞力供給ノ場合ニ之ヲ準用ス

- 四 本令ニ基キテ發スル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ
- 第二十二條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ工事ノ既成部分ニ對シ道路管理者ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ交付ス契約無効ノ場合亦同シ
- 第二十三條 入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキ又ハ第十二條第二項ノ規定ニ依リ落札其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ入札保證金ヲ沒收ス
- 第二十一條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收ス請負人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ契約無効トナリタル場合亦同シ
- 前二項ノ規定ニ依リ沒收シタル保證金ハ道路管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス
- 第二十四條 道路管理者ハ請負人ニ對シ工事ノ出來形ニ相當スル金額ノ十分ノ八以内ノ假拂ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 本令ニ規定セサル事項ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十六條 道路法第十八條第二項ノ規定ニ依ル管理者並道路管理者ニ非サル者ニ於テ工事ヲ執行スル場合及北海道拓殖費ヲ以テ工事ヲ執行スル場合ハ本令ヲ適用セス

附 則
本令ハ大正九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○道路費國庫補助規程

大正十年一月二十九日
內務省令第一號

道路法第三十五條ノ規定ニ依ル道路費國庫補助規程左ノ通
定ム

- 第一條 道路法第三十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ當該年度豫算内ニ於テ本令ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ二分一トス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ道路會議ノ諮問ヲ經テ補助ノ率ヲ高ムルコトヲ得
- 第三條 府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ノ國庫補助ハ三分一トス但シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限リ道路會議ノ諮問ヲ經テ補助ノ率ヲ高ムルコトヲ得
- 第四條 國庫補助ノ算定ニ付テハ道路會議ノ諮問ヲ經テ道路法第三十九條ノ規定ニ依ル負擔額及第四十一條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ノ負擔額ヲ補助基本額ニ加算シテ補助金ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 補助金ハ支出額ニ應ジ之ヲ交付ス
- 第六條 補助基本額決算ノ結果減少シタルトキハ國庫補助

ヲ減額ス
決算ノ際換價シ得ヘキ物件殘存スルトキハ其ノ使途ニ付
內務大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外其ノ時價ニ相當
スル金額ヲ補助基本額ヨリ控除ス

第七條 國庫補助ノ條件ニ適合セサルトキハ補助ヲ取消シ
又ハ停止シ交付シタル補助金ノ返還ヲ命スルコトアルヘ
シ

第八條 國庫補助ノ必要アルモノニ付テハ道路管理者其ノ
工事ノ計畫書、圖面及補助ヲ受クヘキ公共團體ノ收支豫
算書ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○道路取締令

大正九年十二月十六日
內務省令第四五號

道路法第四十九條ノ規定ニ基ツキ道路取締令左ノ通り定ム

道路取締令

- 第一條 道路ヲ通行スル者ハ左側ニ依ルヘシ
- 第二條 歩道、車道等ノ區別アル道路ニ於テハ其ノ區別ニ從ヒ通行スヘシ
隊伍、神輿、葬列其ノ他ノ行列ハ車道ヲ通行スヘシ但シ
兒童、幼兒ノ隊伍ハ此ノ限ニ在ラス
小兒車ハ歩道ヲ通行スヘシ
- 第三條 牛車、馬車、自動車其ノ他ノ重キ車輛ハ歩道ヲ橫
切ルヘカラス但シ通路ニ特別ノ裝置アル場合又ハ最寄警
察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
牛、馬、諸車等ハ斜ニ道ヲ橫切ルヘカラス
地方長官必要ト認ムルトキハ交通頻繁ナル道路ニ於テ特
ニ指定シタル場所ノ外區域及時間ヲ限リ車道ノ橫斷ヲ禁
止スルコトヲ得
- 第四條 牛、馬、諸車等行逢フトキハ互ニ左方ニ避讓スヘシ

道路取締令

第五條 牛、馬、諸車等前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ止ム
ヲ得サルトキヲ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者其ノ右方
ヲ通過スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ後者ニ於テ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲
其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避クルヲ待チテ進行スヘシ
牛、馬、諸車等電車ヲ追越ス場合ハ道路ノ狀況ニ依リ止
ムヲ得サルトキヲ除クノ外其ノ左方ヲ通過スヘシ

第六條 進行中ノ消防車、郵便車、傷病人運搬車及隊伍、
神輿、葬列ニ對シテハ避讓スヘシ

第七條 牛、馬、諸車等ハ左ノ場合ニ於テハ音響器ヲ鳴ラ
シ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ徐行スヘシ
一 道路ノ交叉點、曲角其ノ他屈曲ノ場所又ハ雜沓ノ場
所ヲ通過スルトキ

二 第三條第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ特ニ指定シタ
ル場所ヲ通過スルトキ

三 歩道ヲ橫切ルトキ
四 安全地帯ノ設ナキ停留場ニ在ル電車ノ側方ヲ通過ス
ルトキ

牛、馬、諸車等坂路、隧道又ハ橋梁ヲ通過スルトキハ徐
行スヘシ
牛、馬、諸車等道路交叉ノ場所ニ於テ右折セムトスルト

キハ道路ヲ横切リタル後右方ニ轉向スヘシ
 第一項第四號ノ場合ニ於テ乗降客輻輳スルトキハ牛、馬
 諸車等ハ一時進行ヲ停止スヘシ
 第八條 牛、馬、諸車等ハ夜間燈火ヲ用ヒスシテ通行スヘ
 カラス
 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ異リタル規定ヲ設ク
 ルコトヲ得
 第九條 鐵道又ハ軌道ノ踏切ヲ通過セムトスルトキハ汽車
 電車等ノ接近セサルコトヲ確メタル後通行スヘシ
 第十條 牛、馬、諸車等ハ安全地帯内ヲ通行スヘカラス
 第十一條 道路ノ交叉點、曲角、隧道又ハ橋梁等ニ牛、馬、
 諸車等ヲ駐ムヘカラス
 牛、馬、諸車等ヲ道路ニ駐ムルトキハ其ノ左側端ニ於テ
 之ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ牛馬等ノ奔逸ヲ防クニ必要ナル措置
 ヲ爲スヘシ但シ並木、道路元標、里程標及道路標識等ニ
 之ヲ繋クヘカラス
 第十二條 荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 三寸五分以上
 (四輪車ニ在リテハ其ノ前輪ヲ後輪
 ノ二分ノ一迄縮小スルコトヲ得)

馬車 三寸以上
 (同上)
 大車 (荷臺ノ面積十八平
 方尺以上ノモノ) 二寸以上
 無限軌道其ノ他道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セル車
 ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅ト看做ス
 第十三條 荷車ノ積載量ハ車體ノ重量ヲ合セ左ノ制限ヲ超
 エルコトヲ得ス
 自動車 千四百貫
 牛車 四輪車 五百五十貫
 其ノ他 四百貫
 馬車 四輪車 五百貫
 其ノ他 三百五十貫
 大車 二百貫
 第十四條 荷車ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得
 一 高 自動車ニ在リテハ荷臺ヨリ八尺
 其ノ他ノ荷車ニ在リテハ六尺
 二 前後ノ出幅 荷臺ヨリ各二尺
 三 左右ノ出幅 荷臺ヨリ各一尺
 自動車ニ依ル積荷ハ之ヲ車體ノ前後左右ニ突出セシムル
 コトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ土地ノ狀況、道路、橋梁又ハ車輛ノ
 構造若ハ裝置ニ依リ第十二條第一項、第十三條及第十四
 條ノ制限ニ異リタル規定ヲ設クルコトヲ得
 第十六條 第十三條、第十四條ノ規定又ハ第十五條ニ基ク
 命令ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユ
 ル物ニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地警察官署ノ許
 可ヲ受クヘシ
 第十七條 管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ
 道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第十八條 地方長官ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ム
 ルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 警察官吏ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ
 一時道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第十九條 道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ物ヲ置ク場合ニハ繩
 張、點燈其ノ他危險豫防ニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十條 沿道ノ土地ニ物ヲ堆積シ又ハ立テ置クトキハ倒
 壞、崩落ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十一條 道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ工作物ヲ建設、撤
 去若ハ修繕シ又ハ其ノ他ノ作業ヲ爲ストキハ土砂、瓦石
 竹木、金物等ノ道路ニ飛散又ハ墜落スルヲ防クニ必要ナ
 ル裝置ヲ爲スヘシ

第二十二條 警察官署ハ道路及沿道ノ土地ニ於ケル工作物
 其ノ他ノ施設及物件ニ付其ノ占有者ニ對シ危險防止其ノ
 他交通保全ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
 第二十三條 道路ニ於テ物ヲ運搬スルトキハ其ノ飛散、漏
 出、墜落及危險ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ
 第二十四條 道路ニ於テ乘馬又ハ諸車運轉ノ練習ヲ爲スヘ
 カラス但シ交通稀疎ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於テハ此
 ノ限ニ在ラス
 第二十五條 交通頻繁ナル道路ニ於テ兒童、幼兒ニ遊戲ヲ
 爲サシメ又ハ保護者ナクシテ幼兒ヲ步行セシムヘカラス
 第二十六條 道路ニ於テ煙火、空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄シ又
 ハ投石、投球等危險ノ行爲ヲ爲スヘカラス
 第二十七條 第二條、第三條第一項、第二項、第四條乃至
 第八條第一項、第十條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル
 者又ハ第三條第三項ノ規定ニ基ク禁止ニ違反シタル者ハ
 科料ニ處ス
 第二十八條 第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、
 第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ違反シタ
 ル者、第十二條第一項ノ規定又ハ第十五條ノ規定ニ基ク
 命令ニ依ル輪帶幅ノ制限ニ違反シタル荷車ヲ使用シ若ハ
 同條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル荷車ノ積載量其ノ積荷ノ容

積制限ニ違反シタル者又ハ第十七條、第十八條ノ規定ニ基ク禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第二十九條 第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第三十條 前條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十一條 本令ニ規定スルモノノ外道路法第四十九條ノ規定ニ基ク命令ハ地方長官之ヲ定ム
 附 則
 本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ使用スル荷車ノ輪帶幅ハ大正十五年十二月三十一日迄本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

○河川法

明 二九、四、八 法七一
 改 昭二、三 同四
 昭二、三 同三

河川法

- 第一章 總 則
- 第二章 河川ノ管理
- 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
- 第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等
- 第五章 監督及強制手續
- 第六章 訴願及訴訟
- 第七章 附 則

第一章 總 則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ
 第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル
 流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

河川法

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
 堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ主務大臣カ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シタルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲ爲スコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲ爲スノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料

徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十六條 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ吏員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其

ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ

ナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ

府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲ

一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタル力爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補助金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其

ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ
供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方
行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等
ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設
物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ
施行スヘキ工事ノ爲メ必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スル
コトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除
却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ
得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受
ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町
村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシ
ムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル
工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ
受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ
前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スキヘ賠償金ハ其ノ行政廳

害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又
ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者
ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ
又ハ其ノ他土砂拵止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコト
ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其
ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ
培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂拵止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ
依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘ
シ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近
ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增
進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル
事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新
ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用ス
ルコトヲ得

ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲メノ工作物ノ施設
其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理
者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スル
コトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府
縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體
ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲メ新築若ハ改築工事ヲ施行スル場
合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコト
ヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超
過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航
料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳
ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施
行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ
下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ
規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ
土砂流出ヲ豫防スル爲メ又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス
地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官
ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ
依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限
ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用
ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル
工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若
ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地
方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ
發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必
要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方
法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執
行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發

スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ

依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下附スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ

規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附 則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

○河川法施行規程

明治二十九年六月三日
勅令第三百三十六號

改正
明治三十二年三月
勅令第二八六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ
第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ
第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並其ノ區域及起工

年度ヲ告示スヘシ
前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ
第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ
第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地沿岸若ハ沿場ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ
第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス
前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ
第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續

人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ
第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

第十二條 河川法施行前ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ効力ヲ有ス
第十三條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但シ徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若クハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但シ東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○砂防法

明治三十年三月三十日
法律第二九號
大正十三年七月
改正
法律第三號

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ
第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス
第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得
第二章 土地ノ制限及砂防設備
第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得
前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必

要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得
第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス
第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルトキ、其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキ、其ノ工事至難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキハ主務大臣ハ之ヲ管理シ、其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得
本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得
第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得
第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナ

シタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得
第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス
第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス
第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得
前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス
本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得
災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス
第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及

維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得
前項ニヨリ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム
第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス
第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
第十八條 此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付私人若ハ其區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ区域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除去スルコトヲ得

一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依ニ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ發シタル時ハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テクルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキ時又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サル時ハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充

用スルコトヲ得
 前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス
 第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スル者トス
 此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其金額ヲ支出セシムルコトヲ得
 第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
 行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス
 第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲ

シテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
 第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得
 第五章 訴願及訴訟
 第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
 第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴訟ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス
 第五十四條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 第六章 附 則
 第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム
 第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル
 附 則 (大正十三年七月法律第三號)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十三年七月十八日官報)

○砂防法施行規程

明治三十年十月二十六日
勅令第三百八十二號

砂防法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村會、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○要塞地帯法(拔抄)

明治三二年七月一五日
法律第一〇五號

改正
大正四年
法律第一七號

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ新
設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

○要塞地帯施行規則(拔萃)

第三條 要塞地帯法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル

場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事
項ヲ記シ其ノ作業地テハ其ノ發着場
長朝鮮ニ在リテハ警察署長同分署長臺灣ノ與書ヲ得テ當
ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ
該要塞司令官ニ願出スヘシ
三 要塞地帯法第十條ノ解除シタル乃至第十二條並第十五
條及第十六條ノ解除シタルニ限ルニ掲クルモノニ在リテハ其
ノ目的、設計、位置及落成期限(以下略)

○國有鐵道建設規程

昭和四年七月
鐵道省令第二號

第一章 總則

第一條 國有鐵道ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所
ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ニ依ラザル
コトヲ得

一 特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依ルコ
ト能ハザルトキ

二 其ノ他已ムコトヲ得ザルトキ
註 軌條、車輪等ガ磨耗シ又ハ車輛ノバネガ撓ミタル
場合等ニ於テモ本規程ニ牴觸セザルコトヲ要ス

本條但シ書第一號ニ於ケル特種ノ設計ヲ必要トスル
鐵道トハ齒軌條式、第三軌條式等ノ如キモノヲ謂フ

第二條 本規程ノ適用ニ關シ線路區間ヲ左ノ標準ニ依リ甲
線、乙線及丙線ノ三種ニ區別ス

甲線 幹線ト認ムベキモノ又ハ運輸量特大ナルモノ
乙線 準幹線若ハ主要ナル連絡線ト認ムベキモノ又ハ
運輸量大ナルモノ

丙線 主要ナラザル連絡線又ハ地方線ト認ムベキモノ

國有鐵道建設規程

前項ノ線路區間ノ種別ハ別表ニ依ル

第三條 軌間トハ軌條面ヨリ十六耗以内ノ距離ニ於ケル軌
條頭部間ノ最短距離ヲ謂フ

第四條 本線路トハ列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ謂ヒ側線
トハ本線路ニ非ザル線路ヲ謂フ

註 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スル目的ヲ以テ
仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

停車場内ノ待避線及操車場内ニ於ケル發着線ノ如キ
モ本線路ナリ

第五條 停車場トハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ謂フ
一 驛 列車ヲ停止シ旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲設ケ
ラレタル場所

二 操車場 專ラ列車ノ組成又ハ車輛ノ入換ヲ爲ス爲設
ケラレタル場所

三 信號場 驛ニ非ズシテ列車ノ行違又ハ待合セヲ爲ス
爲設ケラレタル場所

第六條 信號所トハ停車場ニ非ズシテ手動又ハ半自動ノ常
置信號機ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所ヲ謂フ

註 信號場ハ構内ヲ有スレドモ信號所ハ之ヲ有セズ

第七條 車輛ノ固定軸距トハ二以上ノ車軸ヲ有スル不撓性
臺枠ニ於テ橫游ビヲ附セザル車軸中最前位ニ在ルモノト

最後位ニ在ルモノトノ車軸中心間ノ水平距離ヲ謂フ

第二章 線路
第一節 軌間

第八條 軌間ハ一米〇六七トス

第九條 半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ前條ノ軌間ニ相當ノストラックヲ附スルコトヲ要ス但シ三十耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノストラックハ分岐ノ場合ヲ除キ五米以上ノ緩和曲線アル場合ハ其ノ全長ニ於テ、其ノ他ノ場合ハ圓曲線端ヨリ五米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

註 本條第二項ニ於ケル其ノ他ノ場合トハ複心曲線又ハ側線ノ曲線ニ於ケル如キ場合ヲ謂フ

第十條 前二條ノ軌間ニ對スル公差ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

- 一 轍又ノ場合ニ於テハ増四耗、減二耗
- 二 其ノ他ノ場合ニ於テハ増六耗、減三耗

第二節 曲線

第十一條 本線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス

- 甲線 三百米（特別ノ線路四百米）
- 乙線 二百五十米

第十三條 本線路ニ於ケル直線ト曲線トハ分岐ノ場合ヲ除キ相當ノ緩和曲線ヲ以テ接續スルコトヲ要ス
前項ノ緩和曲線ノ長サハ第二十五條ニ依リ附スルカントノ左ノ倍數ヲ下ルコトヲ得ズ

- 甲線 六百倍
- 乙線 四百五十倍
- 丙線 三百倍

第十四條 本線路ニ於ケル反對方向ノ曲線（分岐ノ場合ヲ除ク）ニ於テハ緩和曲線ノ間ニ十米以上相當ノ長サノ直線ヲ挿入スルコトヲ要ス
前項以外ノ反對方向ノ曲線ノ間ニハ相當ノ長サノ直線ヲ挿入スルコトヲ要ス

第三節 勾配

第十五條 本線路ニ於ケル勾配ハ左ノ限度ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ乙線ニ在リテ特別ノ場合ハ其ノ限度ヲ千分ノ三十、電車専用線路ニ在リテハ線路區間ノ種別ヲ問ハズ其ノ限度ヲ千分ノ三十五トス

- 甲線 千分ノ二十五（特別ノ線路千分ノ十）
 - 乙線 千分ノ二十五
 - 丙線 千分ノ三十五
- 千分ノ二十五ヨリ急ナル勾配ニシテ曲線ヲ伴フ場合ニ在

丙線 二百米
前項ノ半徑ハ分岐ニ附帶スル場合ニ於テ左ノ大サ迄之ヲ縮小スルコトヲ得

- 甲線 百六十米
- 乙線 百六十米
- 丙線 百米

停車場ニ於ケル本線路ニシテ乗降場ニ沿フ部分ノ曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス但シ乗降場兩端ノ部分ニ限リ之ニ依ラザルコトヲ得

- 甲線 五百米
- 乙線 四百米
- 丙線 三百米

註 分岐ニ附帶スル曲線トハ一線ヨリ他ノ一線ガ分岐スル場合其ノ分岐ニ於ケル曲線及分岐後該兩線ヲ並行ナラシムル爲ニ要スル曲線ヲ含ムモノニシテ後者ノ半徑ハ成ルベク第二項ノ限度ヨリ大ナラシムルヲ可トス

第十二條 側線ニ於ケル曲線ノ半徑ハ百米以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ハ八十米迄之ヲ縮小スルコトヲ得
註 本條但シ書ハ運轉スル車輛ヲ制限スル場合ニ限リ之ヲ適用ス

リテハ前項ノ限度ヲ超エザル様相當ノ曲線補正ヲ爲スコトヲ要ス
停車場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ其ノ本線路ノ最端轉轍器（最端轉轍器外ガ下リ勾配ナル場合ニハ之ヨリ外方二十米ノ箇所）ノ間及列車ノ停止區域ニ於テ千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ノ解結ヲ爲サザル本線路ニシテ列車ノ發着ニ支障ナキ場合ハ千分ノ十二到ルコトヲ得

側線ノ勾配モ亦千分ノ三・五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス但シ車輛ヲ留置セザル側線ハ之ニ依ラザルコトヲ得
註 本條第三項ノ但シ書ハ電車専用驛、簡易ナル驛ノ如キ場合ニ之ヲ適用ス

第十六條 線路ノ勾配變化スル箇所ニハ勾配ノ變化ガ千分ノ十以上ノ場合ニ於テ左ノ大サ以上ノ半徑ヲ有スル縱曲線ヲ挿入スルコトヲ要ス

- 半徑八百米以下ノ曲線ノ場合 四千米
- 其ノ他ノ場合 三千米

第四節 建築限界

第十七條 建物其ノ他ノ建造物等ハ建築限界内ニ入ルコトヲ得ズ

第十八條 直線ニ於ケル建築限界ハ第一圖ニ依ル

第十九條 曲線ニ於ケル建築限界ハ半徑八百米ヨリ大ナル曲線ニ於テハ直線ニ於ケル建築限界ト同一トシ半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ其ノ幅ヲ車輛ノ偏倚ニ對シ擴大スルモノトス軌道中心線ノ各側ニ於テ擴大スベキ寸法ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出ス

$$R = \frac{22500}{e}$$

ハ軌道中心線ノ各側ニ於テ擴大スベキ寸法(單位耗) Rハ曲線ノ半徑(單位米)

前項ノ擴大寸法ハ緩和曲線ノ全長ニ於テ之ヲ遞減スルモノトス但シ緩和曲線ナキ場合又ハ緩和曲線ノ長サガ十七米ヨリ小ナル場合ニハ圓曲線端(直線ト曲線トノ場合)又ハ半徑小ナル圓曲線端(曲線ト曲線トノ場合)ヨリ十七米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

第二十條 隧道ニハ前二條ノ建築限界外ニ電燈、電線等ノ添加其ノ他ノ爲必要ナル相當ノ餘裕ヲ附スルコトヲ要ス前項ノ餘裕ハ第二圖ニ依ルコトヲ通例トス
註 第二圖ハ隧道ノ斷面ガアーチ形ナル普通ノ場合ニ於ケル最小餘裕ヲ示スモノニシテ若其ノ斷面ガ特種トス

ノ形狀ヲ有シ電燈、電線等ノ添加其ノ他ニ對シ差支ナキ場合ニ於テハ必ズシモ本圖ノ如キ餘裕ヲ要セズ、例ヘバ斷面角形ニシテ其ノ上部ニ前記ノ添加ニ對シ充分ナル餘裕ヲ存スル場合ハ幅ニ對スル餘裕ヲ縮小シ得ルガ如シ
第五節 軌道中心間隔
第二十一條 停車場外ニ於テハ軌道ノ中心間隔ハ三米六以上、三以上ノ軌道ヲ竝設スル場合ニ於テハ隣接スル二中心間隔ノ一ハ四米以上タルコトヲ要ス
停車場内ニ於テハ竝設スル軌道ノ中心間隔ハ四米以上タルコトヲ要ス但シ構内作業上其ノ必要ナキ箇所ノ軌道中心間隔ハ三米八迄、荷物積卸線ト之ニ隣接スル側線トノ中心間隔及車輛ノ收容ヲ主トスル軌道相互間ノ中心間隔ハ三米四迄之ヲ縮小スルコトヲ得
前二項ノ中心間隔ハ本線路ノ曲線ニ於テハ第十九條ニ依ルルハ二倍以上、側線ノ曲線ニ於テハ半徑三百米ヨリ小ナル場合相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス
第六節 軌道
第二十二條 本線路ニ於ケル軌道ノ負擔力ハ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ニ依ルコトヲ標準トス

甲線 K-16 (特別ノ線路 K-18)

乙線 K-15

丙線 K-13

前項ノ標準ハ運轉車輛ノ重量其ノ他線路ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ要ス

註 本條第一項ノ標準負擔力ハ第五十八條ノ最大限度ノ機關車ニ對スルモノヲ標準トシタルモノナルヲ以テ之ヨリ大ナル車輛(第六十條及第六十二條參照)ヲ運轉スル區間ニ在リテハ該標準負擔力ヲ増加シ又之ヨリ小ナル車輛ノミヲ運轉スル區間ニ在リテハ該標準負擔力ヲ輕減スベキモノナリ

第二十三條 軌條ハ左ノ大サノモノタルコトヲ標準トス
停車場外ノ本線路及停車場内 其ノ他ノ場合

- 甲線 三十七疋軌條(特別ノ線路又ハ特別ノ場合五十疋軌條) 三十疋軌條
- 乙線 三十七疋軌條 三十疋軌條
- 丙線 三十疋軌條 三十疋軌條

(特別ノ場合三十七疋軌條)

註 五十疋軌條トハ新製ノ場合ニ長サ一米ニ付約五十疋ノ重量ヲ有スル軌條ヲ謂フ三十七疋軌條及三十疋軌條ニ付テモ亦同様ナリ

第二十四條 道床ノ厚サハ枕木下面ヨリ施工基面迄左ノ寸法ヲ下ラザルコトヲ要ス但シ丙線ニ限り地盤ノ支持力大ナル場合ハ百二十疋迄之ヲ減ズルコトヲ得

甲線 二百耗

乙線 二百耗

註 本條ハ一般ノ道床ニ關スル規定ニシテコンクリート道床ノ如キ特種ノ場合ヲ含マズ

第二十五條 直線ニ於テハ兩軌條面ノ高サヲ等シクスルコトヲ要ス
曲線ニ於テハ分岐ノ場合ヲ除キ外側軌條ニ於テ相當ノカントヲ附スルコトヲ要ス但シ百十五耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノカントハ緩和曲線ノ全長ニ於テ之ヲ遞減スルコトヲ要ス但シ半徑異ナル同方向ノ曲線ノ接續スル箇所ニ於テハカントノ差ハ其ノ三百倍以上ノ長サニ於テ半徑大ナル曲線上ニテ之ヲ遞減スルコトヲ要ス

註 本條第二項ニ於テ分岐ノ場合ヲ除キタリト雖兩開分岐ノ如ク相當ノカントヲ附シ得ル場合ニ在リテハ成ルベク之ヲ附スルヲ可トス

第七節 施工基面

第二十六條 築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅(側溝ヲ除ク)ハ軌道中心ヨリ外縁迄左ノ寸法以上タルコトヲ要ス

甲線 二米四

乙線 二米二五

丙線 二米一

前項ノ幅ハ道床ノ幅其ノ他線路ノ狀況ニ依リ相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第八節 橋梁

第二十七條 本線路ニ於ケル支間三米五以上ノ橋桁ハ木造ト爲スコトヲ得ズ

第二十八條 交通頻繁ナル道路又ハ河川ニ架設スル橋梁ハ軌道中心ヨリ左右各一米七五以上軌道下ヲ蓋フコトヲ要ス

第二十九條 本線路ニ於ケル橋梁ノ負擔力ハ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ニ依ルモノタルコトヲ要ス

但シ電車専用線路ニ對シテハ線路區間ノ種別ヲ問ハズ

KS-12

ニ依ルモノトス

甲線

KS-18

乙線

KS-15

丙線

KS-12

前項ノ負擔力ハ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ乙線ニ在リテハ、丙線及電車専用線路ニ在リテハニ依ルモノトス

KS-18

第九節 架空電車線

第三十條 架空電車線ノ電氣方式ハ直流式トシ千五百ボルトヲ標準トス

第三十一條 架空電車線ノ高サハ軌條面ヨリ五千二百ボルトヲ標準トス

前項ノ高サハ橋梁、隧道、雪覆及跨線橋ニ於テハ四千五百五十耗迄、乗降場上家底ノ部分ニ於テハ四千七百耗迄

之ヲ減ジ又停車場構内ニ於テハ必要ニ應ジ五千五百耗迄之ヲ増スコトヲ得

第三十二條 架空電車線ハ軌條面ニ直角ナル軌道中心面ヨリ左右各二百五十耗以上ノ偏倚ナキコトヲ要ス

第三十三條 架空電車線ノ軌條面ニ對スル勾配ハ本線路ニ在リテハ千分ノ五、側線ニ在リテハ千分ノ十五ヨリ急ナラザルコトヲ要ス

第十節 停車場

第三十四條 停車場ニ於ケル列車ノ發着スル本線路(旅客列車専用線路ヲ除ク)ノ有效長ハ左ノ長サヲ標準トス但シ線路ノ狀況ニ依リ之ニ依ラザルコトヲ得

甲線 三百八十米乃至四百六十米

乙線 二百五十米乃至三百八十米

丙線 百五十米乃至二百五十米

第三十五條 旅客ヲ取扱フ驛ニハ乗降場、待合所、便所等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 荷物ヲ取扱フ驛ニハ荷物積卸場、荷物庫等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 乗降場及荷物積卸場ノ線端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乗降場及荷物積卸場ニ於テハ曲

國有鐵道建設規程

線半徑八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ第十九條ニ準ジ之ヲ増スコトヲ要ス

乗降場ノ幅ハ兩面ヲ使用スルモノハ三米以上、其ノ他ノモノハ二米以上タルコトヲ要ス

乗降場ノ高サハ軌條面ヨリ七百六十耗トス但シ電車専用ノ場合ニ於テハ千百耗、電車及其ノ他ノ列車ニ共用スル場合ニ於テハ九百二十耗トス

乗降場ニ在ル柱類ト乗降場線端トノ距離ハ一米以上タルコトヲ要ス

乗降場ニ在ル本家、跨線橋口、地下道口、待合所、便所等ト乗降場線端トノ距離ハ一米五以上タルコトヲ要ス

荷物積卸場ノ高サハ軌條面ヨリ九百六十耗トス但シ手小荷物専用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ七百六十耗、小口扱貨物専用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ千二十耗トス

前項ノ高サハ特別ノ場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

第三十八條 地方ノ狀況ニ依リ特ニ前三條ノ規定ニ依ラザル驛ヲ設クルコトヲ得

第三十九條 機關車用轉車臺ノ長サハ十二米乃至二十米トス

貨車用ノ轉車臺及遷車臺ノ長サハ五米以上トス

第十一節 分岐及平面交叉

四五三

第四十條 本線路ニ於ケル分岐ハ停車場内又ハ信號所ニ於テ爲スコトヲ要ス但シ側線ヲ分岐スル場合又ハ貨物列車ノミヲ運轉スル本線路ニ於ケル分岐ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限り相當ノ保安設備ヲ爲シ之ニ依ラザルコトヲ得

第四十一條 本線路ハ停車場ニ於テ相當ノ保安設備アル場合ヲ除キ本線路又ハ他ノ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本線路ガ貨物列車ノミヲ運轉スル場合又ハ他ノ鐵道、軌道ガ人力若ハ馬力ヲ動力トスル場合ニ於テ相當ノ保安設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二節 常置信號機

第四十二條 停車場ニハ場内信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ列車ノ進路ニ轉轍器ナキ場合又ハ轉轍器ガ常時鎖錠セラルル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第四十三條 停車場ニハ出發信號機ヲ設クルコトヲ通例トス

第四十四條 停車場ニハ必要ニ應ジ入換信號機及誘導信號機ヲ設クルモノトス

第四十五條 閉塞區間ノ始點ニハ閉塞信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ其ノ始點ガ停車場内ニ在リテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

第四十八條 相互關係ヲ有スル常置信號機及轉轍器ハ聯動ノ裝置ト爲スコトヲ要ス但シ本線路ニ關セザルモノ、常時鎖錠セララル轉轍器及使用稀ナル背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラザルコトヲ得

第四十九條 軌道ノ終端ニハ相當ノ車止裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第五十條 車輛ガ本線路ニ逸走シ又ハ列車ガ過走シテ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス但シ驛員ヲ配置セザル停車場ニ在リテハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第五十二條 交通頻繁ナル踏切道ニ對シテハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏ミ入ル虞アル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠等ヲ設クルコトヲ要ス

第五十四條 列車ヲ避クルニ困難ナル隧道、橋梁其ノ他ニハ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ待避所ハ五十米以内毎ニ之ヲ設クルコトヲ要ス

第十四節 線路標

第五十五條 線路ニハ左ノ標ヲ設クルコトヲ要ス

一 出發信號機又ハ場内信號機ノ設ケアルトキ

二 出發信號機ヲ設クル必要ナキトキ

第四十六條 停車場外ニ於テ可動橋、線路ノ交叉其ノ他特ニ防護ヲ要スル地點ニハ必要ニ應ジ防護信號機ヲ設クルモノトス

第四十七條 場内信號機、閉塞信號機及掩護信號機ニ對シテハ其ノ前方相當ノ距離ニ於テ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケザルコトヲ得

一 場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ガ停止信號ヲ現示スル場合其ノ前方相當ノ距離ニ於テ之ヲ表示スル他ノ常置信號機ノ設ケアルトキ

二 場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ二百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識スル必要ナキトキ

三 丙線ニ限リ場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ四百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識シ得ルトキ

出發信號機ニ對シテハ必要ニ應ジ遠方信號機ヲ設クルモノトス

第十三節 保安設備

一 一軒毎ニ其ノ距離ヲ示ス標

二 勾配ノ變更スル箇所ニハ其ノ勾配ヲ示ス標

三 本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ車輛ノ接觸限界ヲ示ス標

四 列車ノ運轉上特ニ注意ヲ要スル箇所ニハ必要ニ應ジ之ヲ示ス標

五 踏切道ニハ必要ニ應ジ通行ノ注意ヲ惹クベキ標

第三章 車輛

第一節 車輛限界

第五十六條 車輛ハ左ノ各號ニ掲ガルモノヲ除キ直線軌道上正位ニ於テ第四圖ニ示ス車輛限界外ニ出デザルモノタルコトヲ要ス

一 タイヤノ幅以内ニ於ケル車輪ノ部分

二 停止中ニ限り開閉スル扉類ニシテ開キタル場合ニ於ケルモノ

三 雪掻裝置、郵便受渡器、クレーン、其ノ他特種ノ裝置ニシテ使用スル場合ニ於ケルモノ

四 齒軌條用齒車

註 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ屋上裝置ハ車輛限界ノ示ス所ニ依リ其ノ基礎限界外ニ出ヅルコトヲ得レドモ架空電車線ニ依ル運轉區間以外ノ區

間ヲ運轉スル場合ヲ考慮シテ屋上裝置ヲ容易ニ取外シ又ハ集電裝置ヲ折疊ミテ基礎限界内ニ收メ得ル構造ト爲スベキモノトス

第五十七條 車輛ハ曲線軌道上正位ニ於テ其ノ中心線ガ軌道中心線ヨリ偏倚シタル場合ニ於テモ其ノ各部ガ前條ノ車輛限界ノ幅ニ第十九條ニ依ルヲ各側ニ於テ加算シタル限界外ニ出デザルモノタルコトヲ要ス

註 本條ノ規定ハ車輛ガ曲線軌道上ニ於テ軌道ニ對シ左右ニ偏倚シタル場合ニ其ノ各部ノ占ムル位置ヲ制限シタルモノニシテ曲線ニ於ケル建築限界ノ擴大寸法ハ車體ノ長サ約十九米、ボギー中心間ノ距離約十三米四ナルボギー車ノ兩端部及中央部ニ於ケル偏倚ニ相當スルモノナリ故ニ車體ノ長サ及ボギー中心間ノ距離ノ關係上偏倚ガヨリ大トナルベキ車輛ヲ製作スル場合ニハ本條ノ限界外ニ出デザル様其ノ幅ニ付考慮スベキモノトス

第二節 車輛ノ重量

第五十八條 機關車(炭水車ヲ含ム)ハ之ヲ二輛連結シ長サ一米ニ付甲線及乙線ニ在リテハ五噸、丙線ニ在リテハ四噸ノ等布活荷重ヲ牽引スル場合ニ軌道及橋梁ニ對シ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ヨリ大ナル影響ヲ與ヘザ

ルモノタルコトヲ要ス
軌道ニ對シ

甲線 K-16 (線路ノ狀況ニ依リ K-18)

乙線 K-15

丙線 K-13

註 本條ハ機關車ノ車輛ノ軌條ニ對スル壓力及其ノ配置等ノ軌道及橋梁ニ對スル影響ノ最大限度ヲ規定セ

ルモノニシテ機關車ノ製作ニ當リテハ車輛ノ軌條ニ對スル壓力ノミナラズ輪軸ノ配置等ヲモ考慮シテ本條ノ限度ヲ超エザル様ニ爲スベキモノナリ

甲線ニ於テ線路ノ狀況ニ依リ K-18 及 K-18トアルハ特定ノ區間ニ限り使用スル目的ヲ以テ製作スル場合ヲ指スモノトス

第五十九條 機關車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ左ノ大サ以下タルコトヲ要ス

橋梁ニ對シ

KS-16 (線路ノ狀況ニ依リ KS-18)

KS-15

KS-12

第六十二條 前條ニ規定スル限度ハ運轉區間又ハ連結位置ニ制限ヲ有スル車輛ニ付テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ超過スルコトヲ得

註 本條ハ電動車、氣動車、石炭車、冷蔵車、特種貨車其ノ他特ニ重量大ナル客貨車ニ對スル規定ナリ

第三節 輪軸

第六十三條 輪軸ノ配置及之ニ關スル車輛各部ノ構造ハ十八耗ノストラックヲ有スル半徑百米ノ曲線ヲ通過シ得ルモノタルコトヲ要ス

第六十四條 固定軸距ハ四米六以下タルコトヲ要ス

第六十五條 車輛ノ直徑ハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十耗ノ距離ニ於ケル踏面ニ於テ測リ七百三十耗以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ之ニ依ラザルコトヲ得

註 第五圖參照

第六十六條 タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)ノ幅ハ百二十耗以上百五十耗以下タルコトヲ要ス
タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)一對ノ内面距離ハ九百八十八耗以上九百九十四耗以下トシ九百九十耗ヲ以テ標準トス
註 第五圖參照

甲線 十六噸(線路ノ狀況ニ依リ十八噸)

乙線 十五噸

丙線 十三噸

前項ノ壓力ハ第三圖ニ示ス動輪ノ不釣合遠心力、車輛ノバネ下重量等ヲ考慮シテ之ヲ増減スベキモノトス但シ増ス場合ニ於テハ百分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六十條 前二條ノ限度ハ乙線及丙線ノ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ左ノ限度迄増スコトヲ得

標準活荷重 車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力

軌道ニ對シ 橋梁ニ對シ

乙線 K-16 KS-16 十六噸

丙線 K-15 KS-15 十五噸

第六十一條 客貨車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十三噸以下タルコトヲ標準トシ十四噸ニ至ルコトヲ得但シ其ノ重量ハ兩端連結器ノ連結面間ノ距離一米ニ付平均五噸以下タルコトヲ要ス

第六十七條 輪縁ノ高サハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十
耗ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ測リ二十五耗以上三十五耗以
下タルコトヲ要ス
車輪一對ノ中心線ヨリ輪縁外面迄ノ距離ハ前項ノ踏面ヨ
リ十耗ノ下位ニ於テ五百十六耗以上五百二十七耗以下タ
ルコトヲ要ス

註 第五圖參照

第四節 車輛連結器

第六十八條 車輛ハ兩端ニ自動連結器ヲ備フルコトヲ要ス
第六十九條 自動連結器ハ其ノ連結部ニ於テ第六圖ニ示ス
寸法ノ輪廓ヲ有シ又ハ之ト相互連結シテ使用シ得ルモノ
タルコトヲ要ス但シ電車ノ連結器ハ之ニ依ラザルコトヲ
得

第七十條 自動連結器ノ連結面ノ中心ノ高サハ車輛停止中
ニ於テ軌條面上七百九十耗以上八百九十耗以下タルコト
ヲ要ス
自動連結器ノ肘ハ二百二十五耗以上ノ高サヲ有スルモノ
タルコトヲ要ス

第五節 制動機

第七十一條 車輛ニハ貫通制動機ヲ備フルコトヲ要ス但シ
緩急車ニ非ザル貨車及特種ノ車輛ニハ制動管ノミヲ備ヘ

輪ノ軌條ニ對スル壓力(空車ノ場合)ニ對シ百分ノ二十以
上タルコトヲ要ス

第六節 車輛ノ裝置

第七十七條 蒸氣機關車及蒸氣動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコ
トヲ要ス

- 一 二個ノ獨立シタル給水器
 - 二 罐内ノ水位ヲ認ムベキ二個ノ獨立シタル裝置
 - 三 罐ノ安全瓣
 - 四 罐ノ壓力計
 - 五 火粉又ハ燃滓ノ散出ヲ防グ裝置
- 本號ノ裝置ハ其ノ使用スル燃料ノ性質ニ依リ之ヲ省
略スルコトヲ得

第七十八條 電氣機關車及電動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコト
ヲ要ス

- 一 自動遮斷裝置
 - 二 架空電車線ニ依ル場合ニ於テハ避雷器
- 第七十九條 運轉室ヲ有スル車輛ニハ氣笛又ハ之ニ相當ス
ル合圖ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス
- 第八十條 客室ノ床面積ハ旅客定員一人ニ付〇・三平方米
以上タルコトヲ要ス
- 第八十一條 旅客ノ使用スル室ニハ通風、點燈及必要ニ應

貫通制動機ヲ備ヘザルコトヲ得

七十二條 貫通制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力(タイヤ
ニ制輪子ヲ使用セザル制動機ニ在リテハ之ニ換算シタル
壓力)ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力ニ對シ左ノ割合以
上タルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ハ之ニ依ラザルコトヲ
得

一 機關車(タンク機關車ニ在リテハ積載石炭及水量ガ
規定量ノ二分ノ一ノ場合、其ノ他ノ機關車ニ在リテ

ハ運轉整備ノ場合) 百分ノ五十

二 炭水車(空車ノ場合) 百分ノ八十

三 客貨車(空車ノ場合) 百分ノ七十

第七十三條 貫通制動機ハ制動管ガ切斷シタル場合ニ於テ
ハ自動的ニ制動スルモノタルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛
ニ在リテハ之ニ依ラザルコトヲ得

第七十四條 運轉室ヲ有スル車輛及緩急車ニハ貫通制動機
ヲ作用セシメ得ル裝置及制動管ノ壓力ヲ示ス裝置ヲ爲ス
コトヲ要ス

第七十五條 運轉室ヲ有スル車輛(テンダー機關車ヲ除ク)
炭水車及緩急車ニハ他ノ制動機ヲ備フル場合ニ於テモ手
用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第七十六條 手用制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力ハ制動車

ジテ暖房ノ裝置ヲ爲スモノトス
第八十二條 客車ノ側面ニ在ル外開戸及引戸ニハ二重ノ閉
裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ特種ノ裝置ヲ有スル場合ハ之
ニ依ラザルコトヲ得
註 本條但シ書ニ於テ特種ノ裝置トハ自動閉裝置ノ如
キヲ謂フ

第七節 車輛ノ標記

第八十三條 機關車ニハ番號ヲ標記スルコトヲ要ス

第八十四條 客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スルコトヲ要ス但
シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラザルコトヲ得

一 國有鐵道ノ記號

二 記號及番號

三 自重

四 客車ニハ等級及旅客定員

五 荷物車、郵便車及貨車ニハ積載量

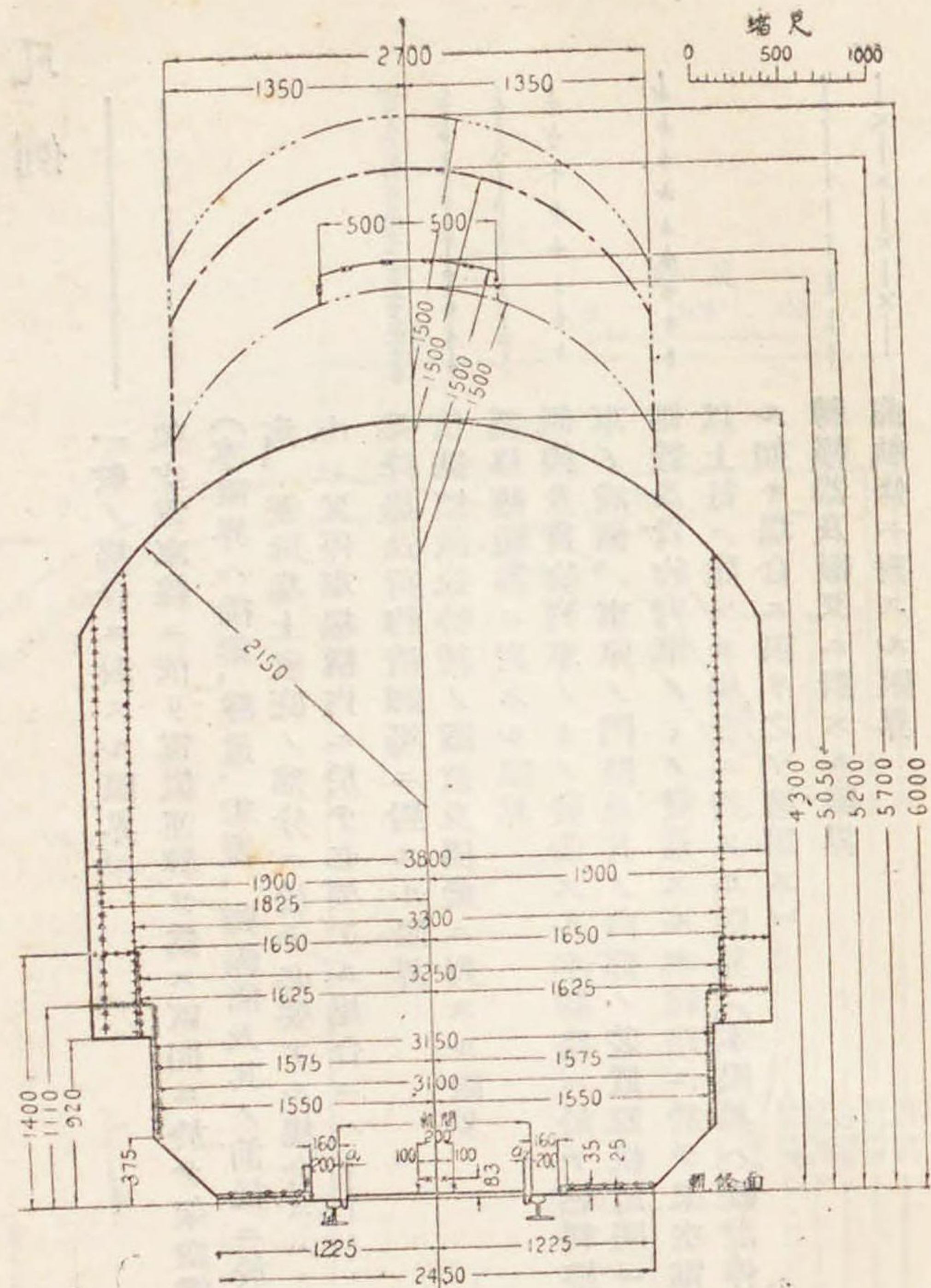
附 則

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年十月十四日鐵道省令第二號國有鐵道建設規程ハ之
ヲ廢止ス

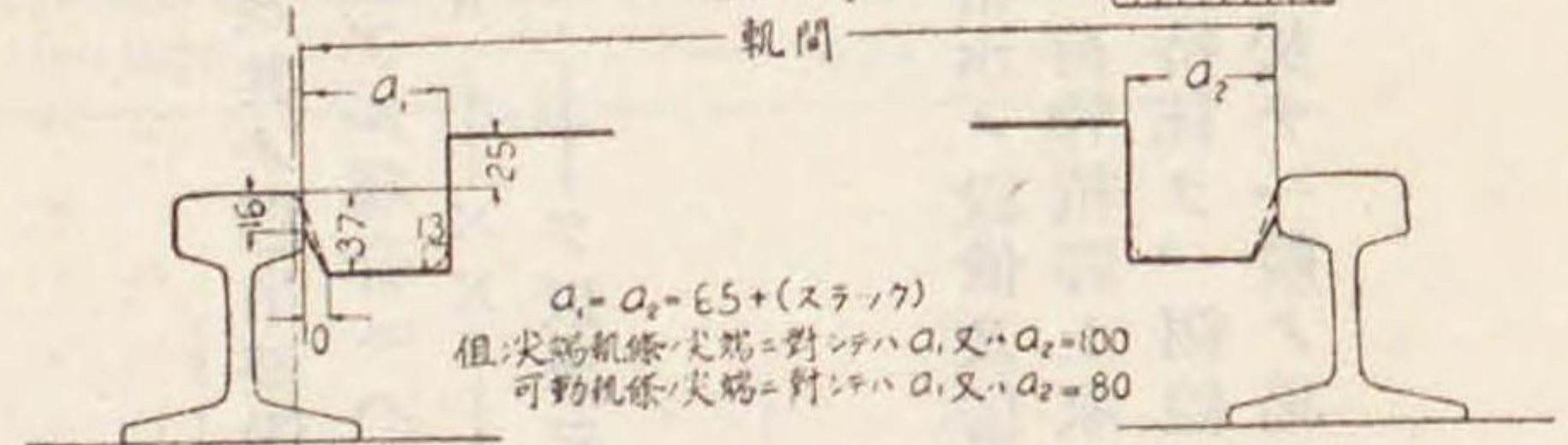
本令施行前ノ工事ニ着手シ又ハ竣工シタル線路其ノ他ノ建造
物、車輛等ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ之ヲ改築又ハ改造

四五九

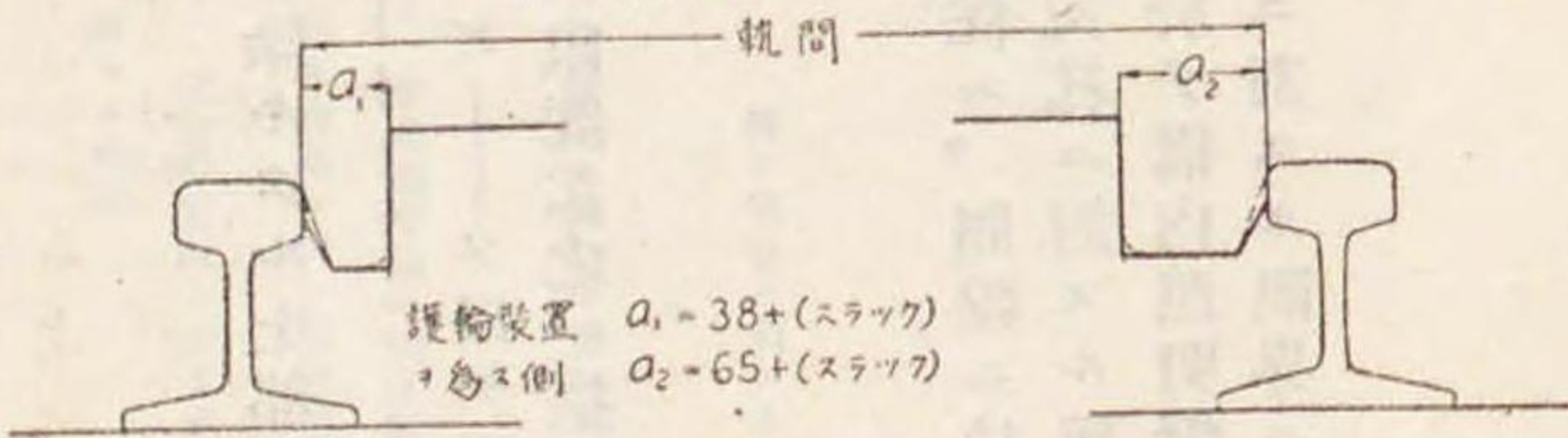


a_1 及 a_2 部分=對 Δ 限界

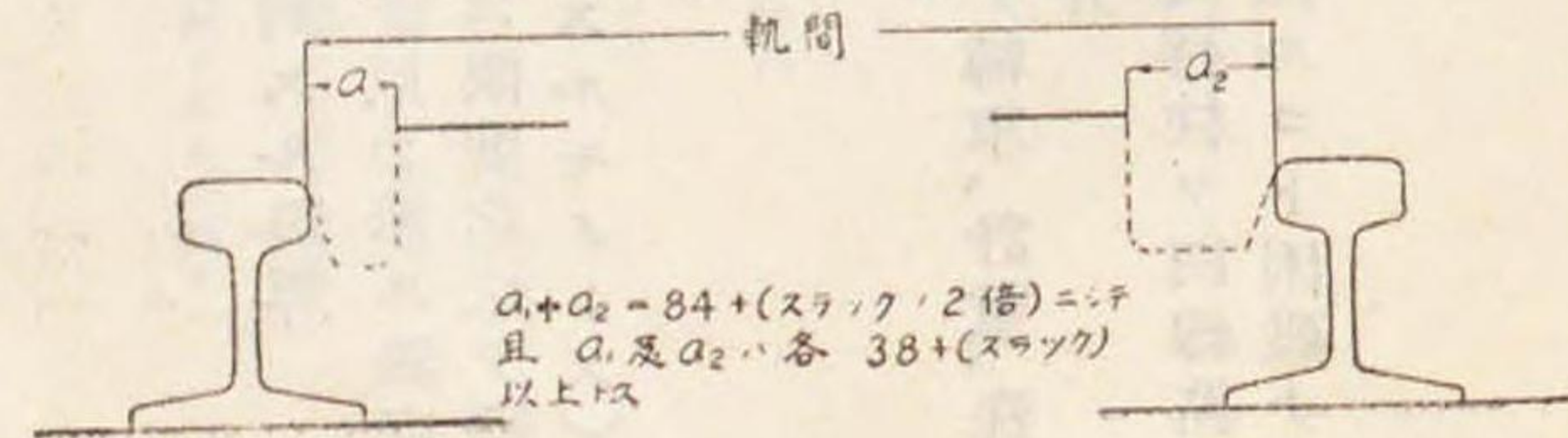
一般ノ場合



一個=護輪装置ヲ為ス場合



錘級器及搬又=於テ兩側=護輪装置ヲ為ス場合



シ終ル迄ハ第一條但シ書ニ依ルモノト看做ス
本令ノ適用ニ當リ機關車ノ運用上直ニ第五十八條及第五十
九條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ速度ニ制限ヲ加ヘ軌道及橋梁
ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ
得
當該線路ニ第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車

輛ヲ運轉スル時期迄ハ乗降場及荷物積卸場ノ縁端ト車輛ノ
踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第三十七條第一
項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス
註 第五項ヲ適用スル場合ハ將來乗降場及荷物積卸場ノ
改築又ハ之ニ沿フ軌道ノ移轉ニ依リ第三十七條第一項
ノ規定ニ依ルコトヲ得ル様考慮シ置クコトヲ要ス

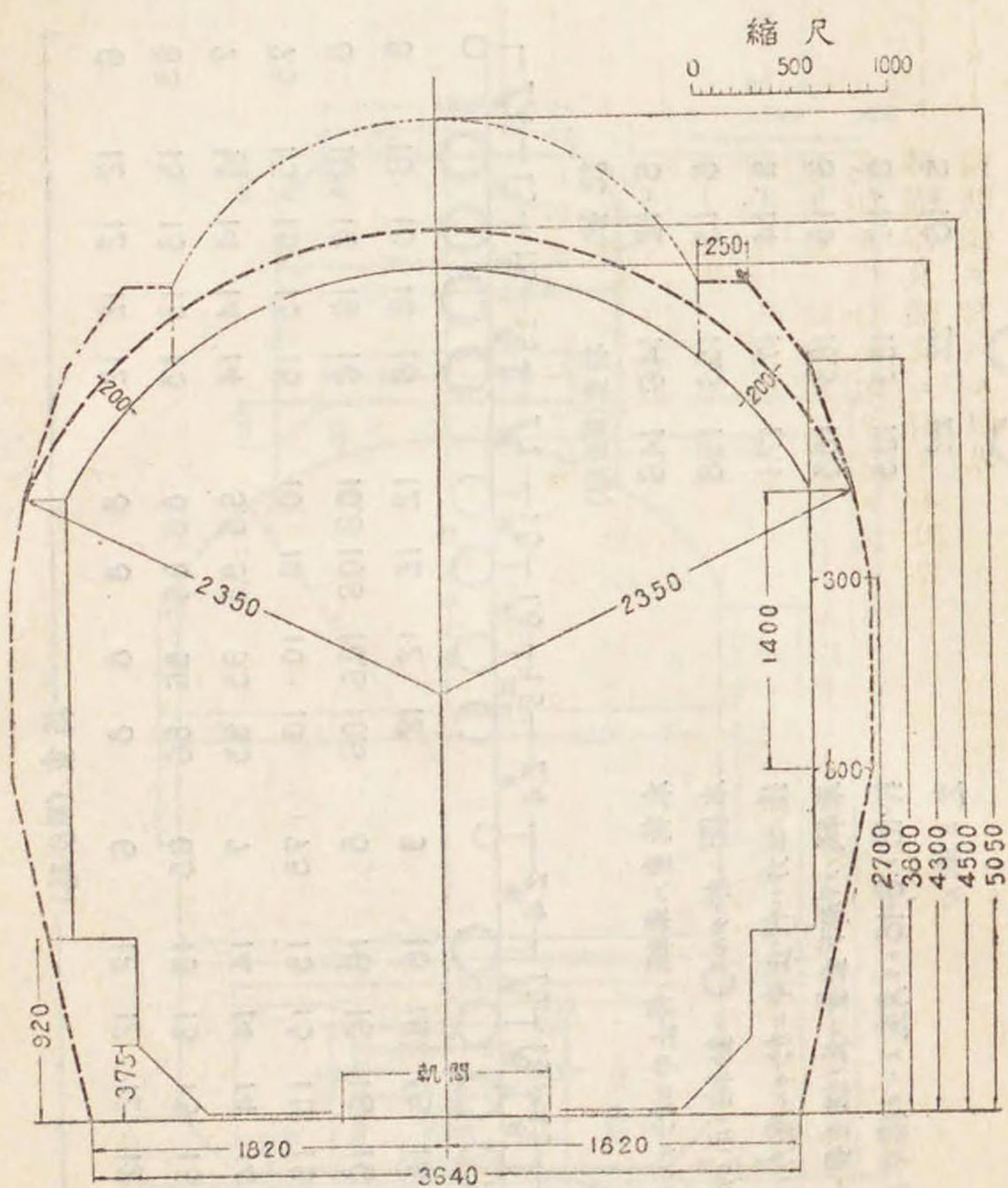
第一圖 建築限界 (單位耗)

凡例

一般ノ場合ニ對スル限界
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於テ架空電車線及其ノ懸吊裝置ヲ除キタル上部ニ對スル限界
 (本限界ハ橋梁、隧道、雪覆、跨線橋及其ノ前後ニ於テ必要アル場合ニハ)ヲ以テ示ス限度迄、乘降場上家庇ノ部分ニ於テ必要アル場合ニハ)ヲ以テ示ス限度迄之ヲ縮小シ又停車場構内ニ於テ必要アル場合ニハ)ヲ以テ示ス限度迄之ヲ擴大スルモノトス)

乘降場及荷物積卸場ニ對スル限界
 信號標識並特種ノ隧道及橋梁ニ對スル限界
 遷移轉轍器ニ對スル限界
 側線及貨物列車ノミノ發着スル本線路ニ於テ燃料搭載、給水ノ設備及信號柱ニ、側線ニ於テ轉車、計重、洗車ノ設備、車庫ノ門路及其ノ内部ノ裝置並軌道間ニ建ツル荷物積卸上家ノ支柱ニ對スル限界
 側線及貨物列車ノミノ發着スル本線路ニ於テ架空電車線支持柱ヲ、側線ニ於テ構内照明燈支持柱ヲ四線路以上毎ニ建ツル場合ニ對スル限界 (本限界ハ既設停車場ニ於テ一般ノ場合ニ對スル限界ニ依ルコト困難ナル如キ場合ニ限り之ヲ適用ス)
 轉轍器及轍又ニ對スル限界
 齒軌條ニ對スル限界

第二圖 隧道ニ於ケル建築限界外ノ餘裕 (單位耗)



凡例

一般ノ場合ニ對スル建築限界
 普通ノ區間ニ對スル餘裕
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於テ隧道ニ對シ建築限界ヲ縮小シ得ル限度
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ對スル餘裕

記號	荷重 (單位噸)																總系		
	6	12	12	12	12	8	8	8	8	6	12	12	12	12	8	8		8	8
K-12	6	12	12	12	12	8	8	8	8	6	12	12	12	12	8	8	8	8	4
K-13	6.5	13	13	13	13	8.6	8.6	8.6	8.6	6.5	13	13	13	13	8.6	8.6	8.6	8.6	4.3
K-14	7	14	14	14	14	9.3	9.3	9.3	9.3	7	14	14	14	14	9.3	9.3	9.3	9.3	4.6
K-15	7.5	15	15	15	15	10	10	10	10	7.5	15	15	15	15	10	10	10	10	5
K-16	8	16	16	16	16	10.6	10.6	10.6	10.6	8	16	16	16	16	10.6	10.6	10.6	10.6	5.3
K-18	9	18	18	18	18	12	12	12	12	9	18	18	18	18	12	12	12	12	6

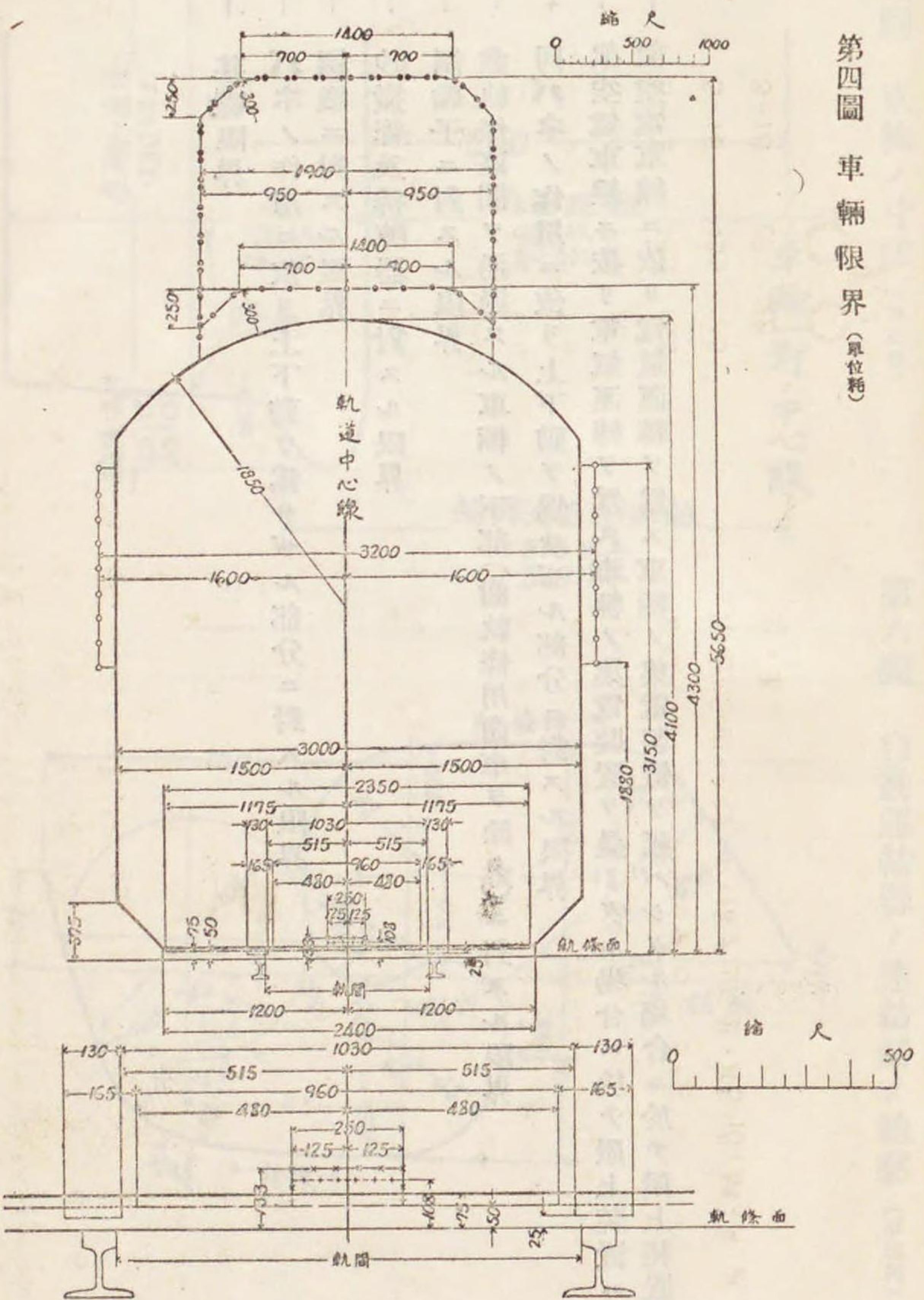
第三圖 標準活荷重

記號	荷重 (單位噸)
S-12	14.6 14.6
S-13	15.8 15.8
S-14	17.1 17.1
S-15	18.3 18.3
S-16	19.5 19.5
S-18	22 22



本荷重ハ車輛停止中ニ於ケル軌條ニ對スル壓力ヲ示スヘシ
 本圖ニ於ケル○ハ動輪ヲ示シ運轉時ニ於ケル動輪ノ鈎合
 遠心力ハ停止中ニ於ケル壓力ノ百分十五トス
 車輛ハ本下重置ノ其總重置ノ百分二十五トス
 K-18トS-18トヲ考慮スルニ標準活荷重ヲKS-18ト稱ス其ノ他
 之ニ準ス

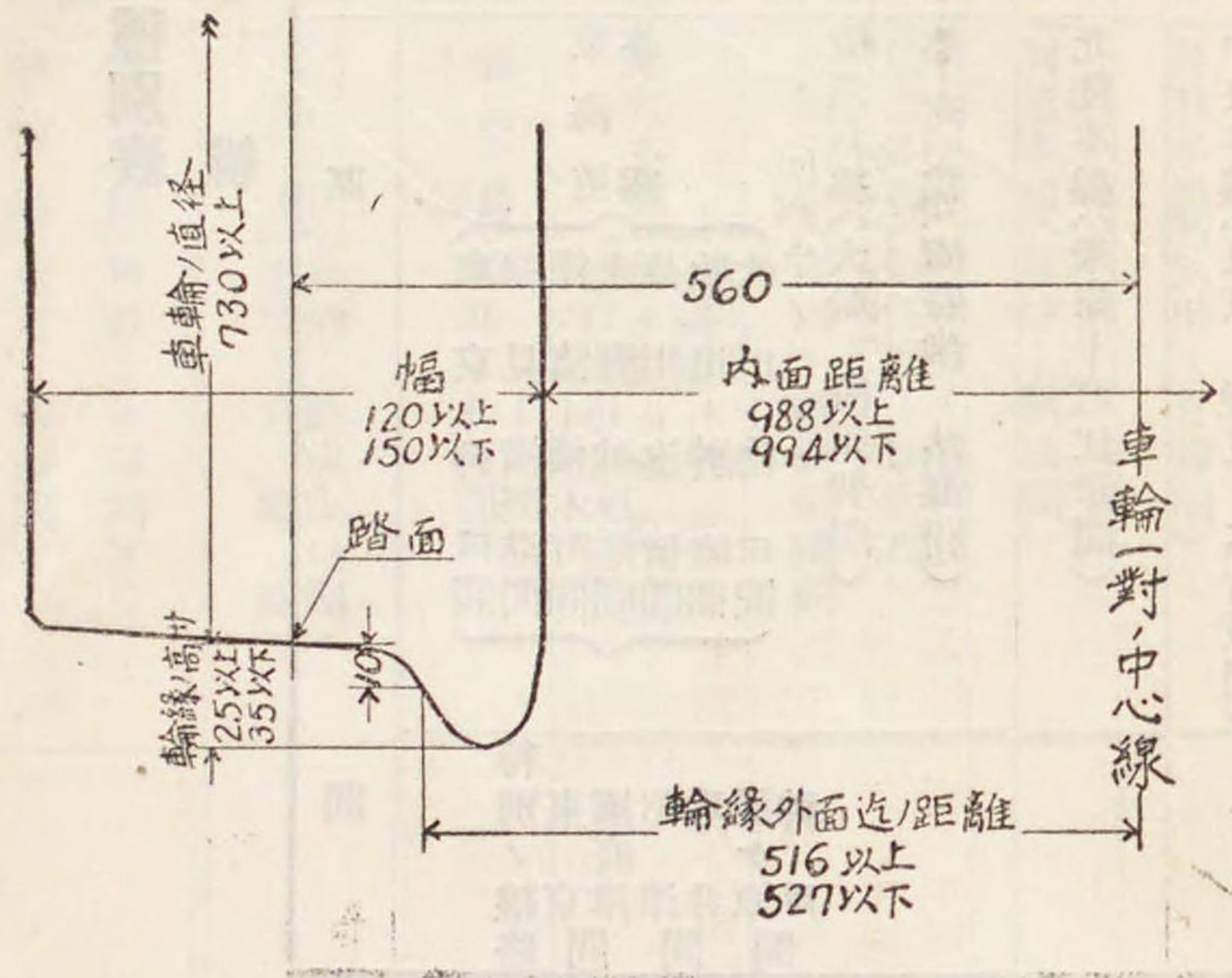
第四圖 車輛限界 (單位米)



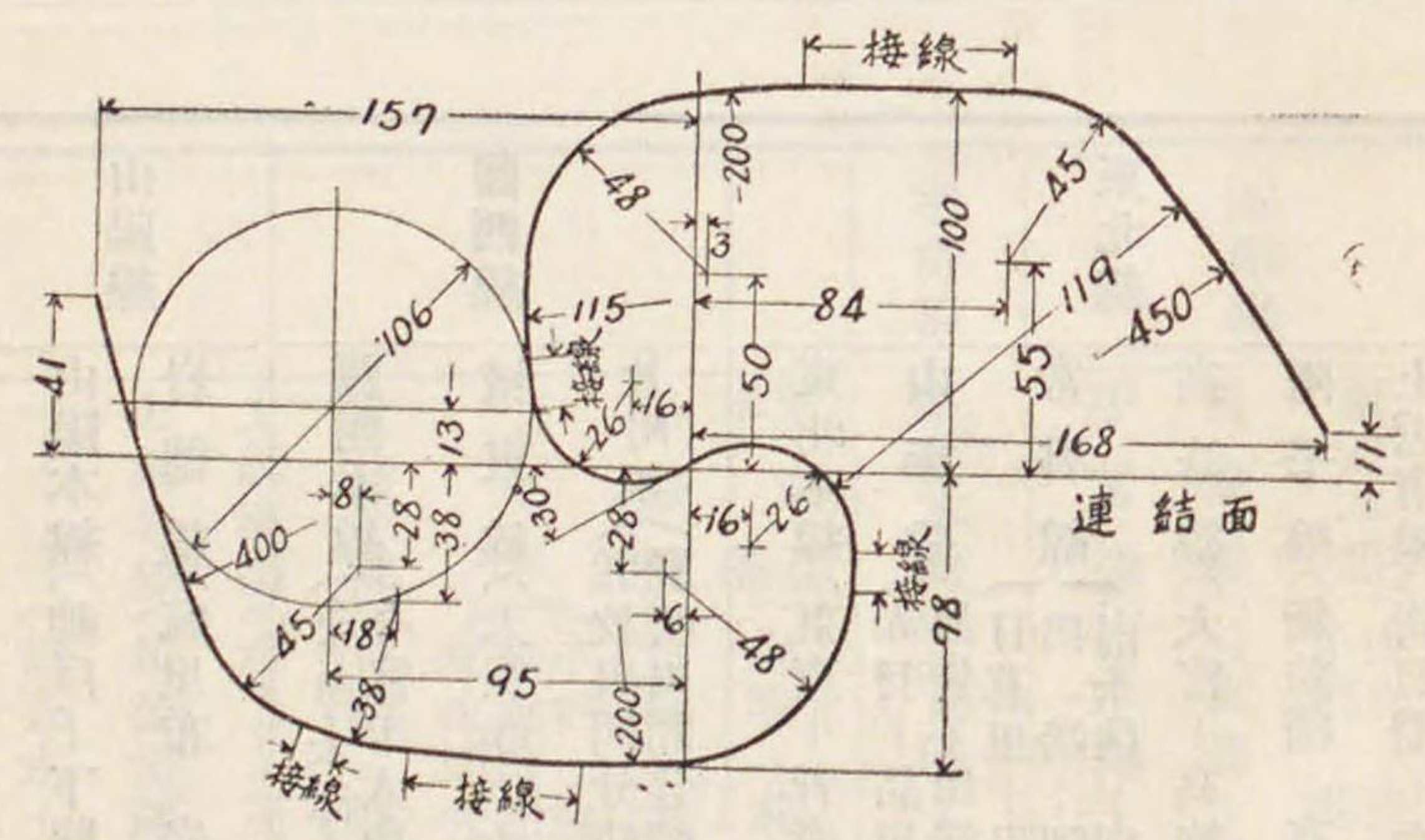
凡例

- 基礎限界
- 同バネノ作用ニ依リ上下動ヲ爲サザル部分ニ對スル限界
- 標識ニ對スル限界
- 砂撒管及排障器ニ對スル限界
- 制輪子ニ對スル限界
- 齒軌條區間ヲ通過スル車輛ノ下部(齒軌條用齒車ヲ除ク)ニ對スル限界
- 同バネノ作用ニ依リ上下動ヲ爲サザル部分ニ對スル限界
- 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ集電裝置ヲ疊ミタル場合ニ於テ屋上裝置ニ對スル限界
- 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ集電裝置ヲ延バシタル場合ニ於テ屋上裝置ニ對スル限界

第五圖 車輪ノ寸法 (單位耗)



第六圖 自動連結器ノ連結部ノ輪廓 (單位耗)



(別表)

線路區間種別表

一 甲 線

線路名稱	區	間
東海線	東海道本線 東京—神戶 鶴見—濱木町 橫濱—櫻木 品川—神戶 川崎—留港 吹田—梅田 吹田—田崎	特別ノ線路 東京—府津 沼津—井原 垂井—關ヶ戸 關ヶ戸—神戶
北陸線	北陸本線(米原—直江津間)	
中央線	中央本線(東京—鹽尻—名古屋間)	
熱海線	熱海線(國府津—熱海間)	
橫須賀線	橫須賀線(大船—橫須賀間)	

奧羽線	奧羽本線(秋田—青森間)	
羽越線	羽越本線(新津—秋田間)	
信越線	信越本線(直江津—新潟間) 上越北線(宮内—越後湯澤間)	
總武線	總武本線 兩國橋—千葉間 新小岩—金町間 龜戶—小名木川間	
鹿兒島線	鹿兒島本線(門司—八代間)	
長崎線	長崎本線(鳥栖—肥前山口間) 諫早—長崎間	
筑豐線	筑豐本線(若松—飯塚間) 伊田線(直方—伊田間)	

國有鐵道建設規程

山陽線	山陽本線(神戸—下關間) 岩德線(麻里布—岩國間)	特別ノ線路 神戸—石間
關西線	關西本線(名古屋—木津—奈良—湊町間) 今宮—大阪港間 城東線(天王寺—大阪間) 片町線(巽吹田間分岐點—放出間分岐點—吹田間)	
東北線	東北本線(東京—青森間) 山手線(赤羽—品川間) 池袋—田端間 日暮里—岩沼間 常磐線(田端—隅田川間) 南千住—隅田川間 高崎線(大宮—高崎間) 兩毛線(新前橋—高崎間) 上越南線(新前橋—水上間)	特別ノ線路 東京—宮間

函館線	函館本線(函館—長萬部間) 小樽—旭川間 長輪線(長萬部—東輪西間) 手宮線(南小樽—手宮間)	
室蘭線	室蘭本線(岩見澤—室蘭間)	
東海道本線	東海道本線(大崎—鶴見間) 熱海線(熱海—沼津間) 平野—放出間分岐點—巽吹田間分岐點間 岩德線(岩國—徳山間) 上越南線(水上—茂倉岳間) 上越北線(越後湯澤—茂倉岳間) (御茶水—兩國橋間)	

總武本線(小名木川—越中島間)
有明線(肥前山口—諫早間)

二乙線

線路名稱	區	間
東海道本線	川崎—濱川崎間 東神奈川—高島間 江尻—清水港間 名古屋—古屋港間 八幡—白鳥間 梅小路—湊川間 小野—湊川間	
橫濱線	東神奈川—八王子間 東神奈川—海神奈川間	
高山線	岐阜—燒石間	
西成線	大阪—櫻島間	
福知山線	神崎—福知山間	

北陸線

小濱線(敦賀—新舞鶴間)
中越線(伏木—高岡間)
新湊線(能町—新湊間)
飛越線(富山—越中八尾間)

中央線

篠ノ井線(鹽尻—篠ノ井間)
太多線(多治見—美濃太田間)

山陽本線

兵庫—和田間
兵庫—新川間
廣島—宇品間

播但線(姫路—和田山間)

宇野線(岡山—宇野間)

作備東線(津山口—中國勝山間)

作備西線(新見—岩山間)

伯備線(倉敷—伯耆大山間)

山陽線

關西線	山陰線	吳線(海田市—吳間) 山口線(小郡—石見益田間) 美禰線(正明市—奈古間) 正明市—黃波戶間 小串線(幡生—阿川間)
櫻井線(奈良—高田間)	山陰本線(京都—須佐間) 舞鶴線(綾部—新舞鶴間) 大社線(出雲今市—大社間)	
奈良線(木津—京都間)	參宮線(龜山—鳥羽間) 紀勢東線(相可口—大內山間) 草津線(柘植—草津間)	

奧羽線

奧羽本線(福島—秋田間)

磐越線

磐越東線(平—郡山間)
磐越西線(郡山—新津間)

東北線

兩毛線(小山—新前橋間)
水戸線(小山—友部間)
日光線(宇都宮—日光間)
鹽釜線(岩切—鹽釜間)

片町線

木津—片町間
京橋—淀川間
巽—巽吹間
巽—巽吹間
巽—巽吹間
巽—巽吹間
巽—巽吹間
巽—巽吹間

和歌山線(王寺—和歌山市間)

紀勢西線(和歌山—御坊間)

陸羽線	陸羽東線(小牛田—新庄間) 陸羽西線(新庄—余目間)
信越線	信越本線(高崎—直江津間) 越後線(柏崎—白山間)
總武線	總武本線(千葉—銚子間) 房總線(千葉—大網—安房北條—木更津—蘇我間) 成田線(佐倉—我孫子間) 東金線(大網—成東間)
讚豫線	讚豫線(高松—松山間) (多度津—阿波池田間)
德島線	德島本線(德島—阿波池田間)

高知線	高知線(高知—土佐山田間)
鹿兒島線	鹿兒島本線(八代—鹿兒島間) 久大線(久留米—筑後吉井間) 肥薩線(國分—鹿兒島間)
長崎線	長崎本線(肥前山口—諫早間) 唐津線(久保田—西唐津間) (西唐津—大島間) 佐世保線(早岐—佐世保間)
日豐線	日豐本線(小倉—都城間) 田川線(伊田—添田間) 大湯線(大分—豐後中村間) 志布志線(都城—西都城間) 國都東線(西都城—財部間)

筑豐線	筑豐本線(飯塚—上山田間) 香月線(中間—香月間) 桐野線(勝野—桐野間) 幸袋線(小竹—幸袋間) 長尾線(飯塚—筑前内野間) 漆生線(芳雄—漆生間)
函館線	函館本線(長萬部—小樽間)
室蘭線	夕張線(追分—夕張間)
根室線	根室本線(瀧川—釧路間)
宗谷線	宗谷本線(旭川—音威子府間) 天鹽線(音威子府—稚內間) 石北西線(新旭川—上川間)

網走線	湧別線(野付牛—遠輕間) 石北東線(遠輕—丸瀨布間) 下田線(熱海—下田間) 八高線(八王子—高崎間) 高山線(燒石—高山間) 飛越線(高山—越中八尾間) 姫津線(姫路—津山間) 作備線(中國勝山—岩山間) 三吳線(三原—吳間) 萩線(須佐—奈古間) 長門線(黃波戶—阿川間) 東紀勢線(大內山—新宮間) 西紀勢線(御坊—田邊間)
-----	---

國有鐵道建設規程

土讚北線（阿波池田—東豐永間）
土讚南線（土佐山田—東豐永間）
久大東線（豊後中村—日田間）
久大西線（筑後吉井—日田間）
國都線（財部—國分間）

長原線（筑前内野—原田間）
石北線（上川—丸瀬布間）

三 丙 線

前二號以外ノ線路區間

○國有鐵道運轉規程

大正十三年十二月廿日
鐵道省令第三號

國有鐵道運轉規程左ノ通定ム

第一章 總 則

第一條 國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサル
トキ

二 其ノ他已ムコトヲ得サルトキ

第二條 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スルノ目的ヲ以
テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

第二章 線 路

第一節 線路ノ保持

第三條 線路ハ所定ノ速度ヲ以テ列車又ハ車輛ヲ安全ニ運
轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス
本線路カ一時前項ノ狀態ニ在ラサル場合ニ於テハ信號ヲ
以テ之ヲ表示シ特ニ注意ヲ必要トスル箇所ハ之ヲ監視ス
ルコトヲ要ス

國有鐵道運轉規程

第四條 本線路ハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要
ス

2 本線路ニ被害ノ虞アルトキハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第五條 新設線路、改築又ハ修繕ヲ爲シタル線路及一時使
用ヲ休止シタル線路ハ検査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之
ヲ使用スルコトヲ得ス但シ本線路ノ改築又ハ修繕ニシテ
輕易ナル場合及使用休止十日未滿ノ場合竝側線ニ在リテ
ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第二節 電力設備ノ保持

第六條 列車運轉用電力設備ハ所定ノ速度ヲ以テ安全ニ列
車又ハ車輛ヲ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第七條 架空電車線路、第三軌條及歸線ニシテ本線路ニ係
ルモノハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

第八條 架空電車線ノ支持又ハ取付部分ニシテ可撓性ヲ缺
クモノハ三月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第九條 前條ニ規定スル部分以外ノ架空電車線路、第三軌
條、歸線、高壓及特別高壓用開閉器、自動遮斷器、繼電
器竝開閉器及變壓器ニ使用スル絶緣油ハ六月以内毎ニ之
ヲ検査スルコトヲ要ス

第十條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外電力設備ハ一年
以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三節 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置

ノ保持

第十一條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ完全ナル状態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第十二條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス

第十三條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ一年以内毎ニ一回其ノ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

第四節 踏切道及障礙物

第十四條 相當時間連續シテ交通頻繁ナル踏切道ニハ其時間中看守人ヲ附シ列車又ハ車輛ノ通過前門扉其ノ他ノ遮斷裝置ヲ閉チ其ノ通過後之ヲ開カシムヘシ但シ自動踏切遮斷裝置又ハ通行人ニ注意ヲ喚起セシムヘキ警報裝置ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 建築限界内ニ物ヲ置クコトヲ得ス但シ作業上必要ニシテ運轉ニ支障ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 車輛

第一節 車輛ノ保持

第十六條 車輛ハ安全ニ運轉シ得ル状態ニ在ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 新製車輛及改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛ハ検査

置ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十二條 蒸汽機關車及汽動車ノ火室内部及火粉止ハ毎月少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十三條 電氣機關車及電動車電機部ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ擔彈機及輪軸ヲ取外シテ各部ノ検査及電氣裝置ノ絶縁耐力試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

2 前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條 第十七條及前條ノ絶縁耐力試験ニ於テハ最大使用電壓ニ其ノ五割ヲ増加シタル電壓ヲ使用シ十分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第二十五條 電氣機關車及電動車ノ電動機、制御裝置、集電裝置、開閉器、自動遮斷器、避雷器、計器並制御裝置

ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十六條 電氣機關車及電動車ニ於ケル電路ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ最大使用電壓ヲ以テ毎月少クトモ一回之ヲ試験スルコトヲ要ス

2 前項ノ試験ニ依リ算出シタル漏洩電流カ低壓ノ場合ハ所定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ所定電流ノ一萬分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ車輛ハ修繕スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

改造又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

2 蒸汽機關車又ハ汽動車ノ罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水壓試験ヲ行フ事ヲ要ス

3 電氣機關車又ハ電動車ノ電氣裝置ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ絶縁耐力試験ヲ行フコトヲ要ス

第十八條 蒸汽機關車及汽動車機關部ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ擔彈機、輪軸及罐衣ヲ取外シテ各部ノ検査及罐ノ水壓試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

2 前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ水壓試験ニ於テハ罐ノ最高使用壓力ニ其ノ三割五分以上ヲ増加シタル壓力ヲ使用シ五分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第二十一條 蒸汽機關車及汽動車ノ汽笛及弁室ノ内部、吐出管、安全弁、加減弁、給水器、給油器、計器並制御裝置

第二十七條 客車、貨車並汽動車及電動車ノ機關及電機ヲ除キタル部分ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ輪軸、擔彈機、連結裝置、緩衝裝置及制動裝置ヲ取外シ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

2 前項ノ期間ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ニ在リテハ一年半、貨物ヲ積載スル車輛ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 蒸汽機關車及汽動車機關部ニハ第十八條及第十九條ニ、電氣機關車及電動車電機部ニハ第二十三條ニ、客車、貨車並汽動車及電動車ニハ第二十七條ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

第二十九條 列車ヲ組成スル車輛ノ検査

及運轉ノ狀況ニ應シ相當ノ距離ヲ運轉スル毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三十條 列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試験スルコトヲ要ス

第四章 運轉

第一節 列車ノ組成

第三十一條 列車ノ最大軸數ハ之ヲ組成スル車輛ノ臺枠及

國有鐵道運轉規程

連結裝置ノ強度ニ應シ之ヲ定ムルコトヲ要ス
 第三十二條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ千分ノ三ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有セサル線路ヲ運轉スル列車ノ後部補助機關車ハ此ノ限ニ在ラス
 2 自動連結器ヲ有セサル車輛ノ連結ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外螺旋連結器及連環連結器ヲ以テ二重ニ之ヲ行フコトヲ要ス
 第三十三條 旅客列車及一時間六十五軒ヲ超ユル速度ヲ以テ

テ運轉スル其ノ他ノ列車ハ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結軸數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス
 2 前項ノ列車ニシテ第三十七條ニ依リ貫通制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スル場合ニ於テハ貫通制動機ノ作用スル部分ニ付前項ノ規定ヲ適用ス
 3 第一項以外ノ列車ハ線路ノ勾配及速度ニ應シ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

速度一時間ニ付	勾配	千分ノ								
		二以下	四	六	八	一〇	一五	二〇	二五	三〇
二	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六
二	五	六	六	六	六	六	七	九	一〇	一三
三	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六
三	五	六	六	六	六	六	七	九	一〇	一三
四	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六

四	五	六	六	五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四
五	〇	五	五	六	六	六	六	五	五	五	五	五	五	五
六	〇	六	六	七	七	七	七	六	六	六	六	六	六	六
五	〇	五	五	六	六	六	六	五	五	五	五	五	五	五
四	〇	四	四	五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四
五	〇	五	五	六	六	六	六	五	五	五	五	五	五	五
六	〇	六	六	七	七	七	七	六	六	六	六	六	六	六
五	〇	五	五	六	六	六	六	五	五	五	五	五	五	五
四	〇	四	四	五	五	五	五	四	四	四	四	四	四	四

速度一時間ニ付	勾配	千分ノ									
		二	四	六	八	一〇	一五	二〇	二五	三〇	
二	〇	一八	二四	三一	三一	三七	四四	四四	五六	六九	八一
二	五	二二	二七	三四	三四	四一	四八	四八	六一	七四	
三	〇	二三	三〇	三七	三七	四四	五二	五二	六五		
三	五	二五	三三	四一	四一	四八	五五	五五	七〇		
四	〇	二八	三六	四四	四四	五二	六〇	六〇			
四	五	三一	四〇	四八	四八	五六	六四	六四			

國有鐵道運轉規程

線路ノ勾配及列車ノ速度ニシテ本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ挿入法ニ依リ算出ス

五	〇	料	三五	四三	五二	六〇							
五	五	料	三八	四七	五六								
六	〇	料	四二	五一	六〇								
六	五	料	四六	五五									

- 前三項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ル
一 勾配ハ線路上ニ一籽ヲ距テタル二點ヲ結付クル直線ノ勾配トス
- 機關車ノ働輪一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ二軸ニ、炭水車ノ一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス
- 齒軌條用齒車付電氣機關車ノ働輪一軸ハ連結軸トシテ之ヲ二軸ニ制動軸トシテ之ヲ五軸ニ換算ス
- 空貨車ノ一軸ハ連結軸トシテ之ヲ半軸ニ換算ス
- 制動力ヲ增加スル爲特ニ自重ヲ増加シタル貨車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス

- 六 車側制動機ヲ使用スル車輛ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ〇・二軸ニ換算ス
- 七 齒軌條用齒車付緩急車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ二軸ニ換算ス
- 八 制動機ヲ備フルモノ其ノ取扱人ナキ車輛ノ車軸ハ制動軸トシテ之ヲ計上セス
- 九 十分ノ三ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スル列車ニ在リテハ前頭ノ機關車及炭水車ヲ除キタル殘餘ノ車輛ニ對シ連結軸數ト制動軸數トノ割合ヲ第三項ノ表中一時間二十籽ノ速度ニ該當スルモノ以上ト爲スコトヲ要ス但シ救援列車ハ此ノ限ニ在ラス

- 第三十四條 列車ヲ組成スルニハ制動力ヲ其ノ全長ニ互リ成ルヘク均等ナラシムル様車輛ヲ配置スルコトヲ要ス
- 第三十五條 機關車、汽動車又ハ電動車ハ列車ノ前頭ニ之ヲ連結スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 總括制御法ニ依リ列車ノ前頭ヨリ制御セララルトキ
- 二 十分ノ五十ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スルトキ
- 三 救援列車及排雪列車ヲ運轉スルトキ
- 四 十分ノ十ヨリ急ナル上リ勾配ヲ有スル區間及特ニ必要アル區間ヲ運轉スル列車並故障ヲ生シタル列車ニハ其ノ最後部ニ補助機關車ヲ使用スルコトヲ得
- 五 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ列車ノ後部ノミニ機關車、汽動車又ハ電動車ヲ連結スルコトヲ得
- 六 一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ
- 七 二 工事列車及監視列車ヲ運轉スルトキ
- 八 三 停車場ト其ノ附近ノ探礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於テ列車ヲ運轉スルトキ
- 九 四 特殊ノ事由アルトキ
- 十 第三十六條 列車ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニハ手用制動機附車輛ヲ連結シ之ニ制動機取扱人ヲ乗込マシ

- 一 ムルコトヲ要ス但シ全部ニ貫通制動機ヲ使用スル列車、排雪列車並救援列車ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 毀損車輛及特殊構造ノ車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得サルモノハ一輛ニ限リ前項ノ後部手用制動機附車輛ノ後部ニ之ヲ連結スルコトヲ得
- 三 第三十七條 列車(軍用ニ專用スル列車ヲ除ク)中貨車ハ客車(回送ノモノヲ除ク)ノ中間ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス但シ有蓋緩急車ヲ荷物車ニ代用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 二 旅客列車又ハ混合列車ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ左ノ範圍ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連結スルコトヲ得ス
- 五 三 前項以外ノ列車ニシテ一時間六十五籽ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル場合ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ十軸ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連

運轉中最後部
車輛ノ貫通制
動機故障ヲ生
シタル場合ニ
限リ

結スルコトヲ得ス

第三十八條 (削除)

第三十九條 火藥類ヲ積載シタル車輛ノ連結ニ就テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十條 火藥類以外ノ貨物ニシテ發火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ積載シタル車輛ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ四軸以上ヲ隔ツルニ非サレハ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス

第四十一條 列車ニハ列車標識ヲ掲クルコトヲ要ス

第二節 列車ノ運轉

第四十二條 車輛ハ之ヲ列車ト爲スニ非サレハ停車場外ノ本線路ヲ運轉スルコトヲ得ス但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 上下列車ヲ區別シテ運轉スル一對ノ軌道ニ於テハ列車ノ進路ハ左側タルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 線路又ハ列車ニ故障ヲ生シタル場合ニ於テ互リ線ノ設アル最近ノ停車場ニ到ル退行運轉
二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉
三 後部補助機關車ノ退行運轉
四 停車場ト其ノ附近ノ探礦所、工場、材料置場等トノ

次ノ列車ヲ進入セシムルコトヲ得但シ先發列車其ノ閉塞區間ニ進入シタル後五分時ヲ經過シタル後タルコトヲ要ス

第四十七條 列車ハ左ノ場合ニ限り退行スルコトヲ得

- 一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ
 - 二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉
 - 三 後部補助機關車ノ退行運轉
 - 四 停車場ト其ノ附近ノ探礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運轉
 - 五 入換運轉
 - 六 特殊ノ事由アルトキ
- 第四十八條 二以上ノ列車ノ發著ニ際シ相互ニ其ノ進路ヲ支障スル虞アル場合ニ於テハ二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルコトヲ得ス
- 第四十九條 列車又ハ車輛ハ停止信號ノ現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ速ニ停止スルコトヲ要ス
- 一 發雷信號ノ現示アリタルトキ
 - 二 入換手信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキ
 - 三 現示箇所ニ停止シ能ハサル距離ニ於テ停止信號現示アリタルトキ

間ニ於ケル運轉

五 入換運轉

六 特殊ノ場合ニ於ケル停車場内ノ運轉

第四十四條 本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分ツコトヲ要ス但シ停車場内ノ本線路ハ之ヲ閉塞區間ト爲ササルコトヲ得
2 單線運轉ヲ爲ス本線路ニ在リテハ列車運轉ノ方向ニ依リ閉塞區間ノ區分ヲ異ニスルコトヲ得

第四十五條 一閉塞區間ニハ二以上ノ列車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 第四十六條又ハ第五十條ニ依リ運轉スルトキ

二 故障列車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援列車ヲ運轉スルトキ

三 線路不通トナリタル閉塞區間ニ於テ工事列車ヲ運轉スルトキ

四 閉塞區間内ニ於テ後部補助機關車ヲ列車ヨリ分離シタルトキ

五 列車ノ入換若ハ誘導又ハ分割運轉ヲ爲ストキ

第四十六條 閉塞區間兩端相互間ノ閉塞裝置ニ故障ヲ生シ且電氣通信不可能トナリタル場合ニ於テハ列車其ノ閉塞區間ヲ出ツヘキ豫定時刻ヲ經過シタルトキハ同一方向ニ

第五十條 列車ハ自動ノ閉塞信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル後ハ停止信號現示中ト雖其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

2 自動ノ閉塞信號機ニ徐行許容標ヲ添裝セルモノニ在リテハ其ノ信號機ニ停止信號ノ現示アル場合ト雖列車ハ停止セシメテ其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

第五十一條 列車ハ注意信號現示アル場合ニ於テハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示アルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ次ノ信號機ノ設ナキトキハ注意信號ヲ現示スル信號機ノ防護スル區域内ニ停止スルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得

第五十二條 列車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得

第五十三條 列車ハ出發合圖アルニ非サレハ停車場ヲ出發スルコトヲ得ス

第三節 入換

第五十四條 列車カ隣接セル停車場又ハ信號所ヲ出發シタル後ハ其ノ列車ニ對スル場内信號機外ニ互リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ相當ノ防護ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外

突放ヲ爲シ又ハ重力ヲ利用シテ之ヲ入換スルコトヲ得ス
第五十六條 旅客ノ乗込ミタル車輛及火藥類其ノ他ノ爆發
質危險品ヲ積載シタル車輛ハ之ヲ突放シ又ハ之ニ向ツテ
他ノ車輛ヲ突放スルコトヲ得ス重力ヲ利用シテ入換ヲ爲
ス場合亦同シ

第四節 運轉速度

第五十七條 半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速
度ヲ超過シテ運轉スルコトヲ得ス

曲線半徑(米)		速度(一時間ニ付料)	
線路ノ分岐ニ附帶線路ノ分岐ニ附帶 セサル曲線ノ場合スル曲線ノ場合	一	二	三
六〇〇	八五	六五	四五
五〇〇	七八	五五	四〇
四〇〇	七〇	五〇	三〇
三〇〇	六〇	四五	二五
二〇〇	五〇	四五	二〇
一〇〇	四〇	三〇	一五

曲線半徑本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル速度ハ挿入法ニ依リ算出ス

第五十八條 第五十條ニ依リ運轉スル列車速度ハ相當ニ制
限スルコトヲ要ス
第五十九條 列車ハ徐行信號現示セラルトキハ其ノ速度
ヲ一時間十五料以下ニ低減スルコトヲ要ス但シ其ノ速度
指定シアルトキハ其ノ定ニ依ル
第六十條 列車推進ノ場合ニ於ケル速度ハ一時間二十五料
ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前部ニ附隨車二輛以內ヲ連結シ
總括制御法ニ依リ前部ヨリ操縱セラルル電車及排雪列車
ハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 第四十七條第一號ニ依リ列車退行スル場合ニ
於ケル速度ハ一時間十五料ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 炭水車附機關車ヲ逆向シテ列車ノ前頭ニ連結
シ運轉スル場合ニ於ケル速度ハ一時間四十五料ヲ超ユル
コトヲ得ス炭水車附機關車ヲ逆向シテ單行運轉ヲ爲ス場
合及雪搔車ヲ機關車ノ前頭ニ連結シテ廻送スル場合亦同
シ

第六十三條 列車又ハ車輛入換ノ速度ハ一時間二十五料ヲ
超ユルコトヲ得ス但シ機關車、汽動車及電動車ハ此ノ限
ニ在ラス

第五節 信號及合圖

第六十四條 信號ヲ現示スヘキ所定ノ場所ニ信號ノ現示ナ

キトキ又ハ其ノ現示正確ナラサルトキハ列車ノ運行ニ最
大ノ制限ヲ附スル信號ヲ現示アルモノト看做ス
2 常置信號機ト信號ト力異リタル信號ヲ現示スルトキハ
列車ハ其ノ運行ニ大ナル制限ヲ附スルモノニ依ルコトヲ
要ス但シ豫メ通告アリタルトキハ信號ノ現示ニ依レ
第六十五條 列車又ハ車輛ノ進路ニ支障ナキ場合ニ非サレ
ハ之ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示スルコトヲ得ス
第六十六條 列車又ハ車輛ニ對シ進行ヲ指示スル信號ノ現
示アル場合ニ於テハ其ノ進路ヲ支障スルコトヲ得ス
第六十七條 遠方信號機ハ其ノ主體ノ信號機停止信號ヲ現
示スルトキハ注意信號ヲ現示スルコトヲ要ス
第六十八條 場内信號機ノ設アル停車場ニ於テ之ヲ通過ス
ヘキ列車ヲ停止セムトスル場合ニ於テ出發信號機ノ遠方
信號機又ハ之ニ相當スル信號機ノ設ナキトキハ場内信號
機ニ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス但シ豫メ通告シタル
場合ハ此ノ限ニ在ラス
第六十九條 線路ニ支障アル爲列車ヲ停止セムトスル場合
ニ於テ常置信號機ヲ使用シ得サルトキハ支障箇所ノ外方
二百米以上ノ地點ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ停止信
號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ現示箇所ノ外方
相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

2 列車故障ノ爲途中ニ停止シ他ノ列車ヲ停止セシムルヲ要
スル場合ハ相當防護ノ手段ヲ爲スコトヲ要ス
第七十條 列車ヲ徐行セシムトスル場合ニ於テハ徐行區
域ノ始端ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ徐行信號ヲ現示
シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ徐行信號現示箇所ノ外方
相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス
2 前項ノ場合ニ於テハ徐行區域ノ終端ニ臨時信號機ニ依リ
徐行解除信號ヲ、又ハ手信號ニ依リ進行信號ヲ現示スル
コトヲ要ス
第七十一條 天候ノ状態ニ依リ百米ノ距離ヨリ信號ノ現示
ヲ認識シ難キ場合ニ於テ場内信號機、掩護信號機又ハ閉
塞信號機(自動ノ閉塞信號機ヲ除ク)停止信號ヲ現示スル
トキハ其ノ信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ列車ノ通過
前信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス第六十九條ニ依リ臨
時信號機又ハ手信號ノ停止信號ヲ現示スルトキ亦同シ
第七十二條 列車常置信號機ノ設アル箇所ヲ通過スル毎ニ
誘導信號機ニ在リテハ信號ヲ現示セサルコトヲ、遠方信
號機ニ在リテハ注意信號ヲ現示スルコトヲ、其ノ他ノ信
號機ニ在リテハ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス
第七十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ氣笛合
圖ヲ爲スコトヲ要ス

一 列車運轉ヲ始ムルトキ
 二 列車分離其ノ他非常ノ事故ヲ生シタルトキ
 第六節 停止中ノ車輛
 第七十四條 本線路ニ停止中ノ車輛ニハ不測ノ運動ニ對スル防備ヲ爲シ置クコトヲ要ス側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出スル虞アルモノニ付亦同シ
 第七十五條 機關車、汽動車及電動車停止中ハ其ノ自動ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ施シ且動力ヲ有スル間ハ之ヲ看守スルコトヲ要ス

第五章 閉塞

第一節 通則

第七十六條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル
 一 複線運轉ヲ爲ス場合
 閉塞器式、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式
 二 單線運轉ヲ爲ス場合
 通票閉塞器式、通票式、票券式ト閉塞器式若ハ通信閉塞式トノ併用、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式
 第七十七條 事故其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル
 一 複線運轉ヲ爲ス場合
 通信閉塞式

二 單線運轉ヲ爲ス場合

指導法ト通信閉塞式又ハ閉塞器式トノ併用
 但シ自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式ニ依リ複線運轉ヲ爲ス區間ノ一軌道ニ於テ一時單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ複線運轉ノ場合ト同一方向ニ運轉スル列車ニ對シテハ指導法ト其ノ閉塞方式トノ併用ニ依ルコトヲ得
 第七十八條 第四十六條ノ場合ニ於テ單線運轉ヲ爲ス區間ニハ指導法又ハ票券式ヲ施行スルコトヲ要ス
 第二節 閉塞器式
 第七十九條 閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス
 第八十條 閉塞器ハ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス
 一 列車閉塞區間ニ無シ
 二 列車閉塞區間ニ在リ
 第八十一條 閉塞器ハ列車ヲ進入セシメタル停車場又ハ信號所ニ於テ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス
 第八十二條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ

信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

2 前項ノ承認ハ標識ニ依リ之ヲ表示スルコトヲ要ス但シ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第八十三條 前條ノ承認ハ其ノ閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ラサルコトヲ確認スルニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

第三節 聯動閉塞器式

第八十四條 聯動閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ聯動閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス
 第八十五條 聯動閉塞器ハ信號機ト聯動シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス
 一 列車閉塞區間ニ無シ
 二 列車閉塞區間ニ在リ

第八十六條 聯動閉塞器ハ列車閉塞區間ニ在ルトキハ其ノ區間ノ信號機ニ他ノ列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シ能ハサラシムル裝置ノモノタルコトヲ要ス
 第八十七條 聯動閉塞器ハ閉塞區間ニ進入シタル列車カ其ノ區間ヲ通過シ了リタル後ニ非サレハ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十八條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ

「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス但シ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ豫メ其ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 2 第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第四節 自動閉塞式

第八十九條 自動閉塞式ヲ施行スル閉塞區間ノ場内信號機、出發信號機及閉塞信號機ハ自動作用ニ依リ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス
 一 閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ルトキハ停止信號ヲ現示スルコト
 二 裝置ニ故障ヲ生シタルトキハ停止信號ヲ現示スルコト
 三 閉塞區間ニ在ル轉轍器カ正當ノ方位ニ在ラサルトキ又ハ分岐線若ハ交叉線ニ於ケル列車若ハ車輛カ閉塞區間ヲ支障スルトキハ停止信號ヲ現示スルコト
 四 單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シタルトキハ反對ノ方向ヨリ其ノ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ停止信號ヲ現示スルコト
 第五節 通信閉塞式

第九十條 通信閉塞式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又

ハ信號所ニハ特設ノ電話機ヲ備フルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ他ノ電話機又ハ電信機ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一 運轉閉塞ナルトキ

二 特設ノ電話機ニ故障ヲ生シタルトキ

三 事故其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ於テ電話機ヲ特設シ難キトキ

第九十一條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

2 第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第六節 通票閉塞器式

第九十二條 通票閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ通票閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第九十三條 通票閉塞器ハ其ノ區間專用ノ通票ヲ收容シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

一 列車閉塞區間ニ無シ

二 列車閉塞區間ニ在リ

第九十四條 通票閉塞器ハ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノ

タルコトヲ要ス

一 通票ハ閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニ於テ協同スルニ非サレハ之ヲ取出シ能ハサルコト

二 閉塞區間兩端ニ於ケル通票閉塞器ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限り之ヲ取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ通票閉塞器ニ納入スルニ非サレハ之ヲ取出シ能ハサルコト

三 隣接閉塞區間用ノ通票ヲ收容シ能ハサルコト

第九十五條 隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスルコトヲ要ス

第九十六條 列車ハ當該區間ノ通票ヲ携帯スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第九十七條 列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ通票閉塞器ニ收容シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第九十八條 第八十二條第一項及第八十三條ノ規定ハ通票閉塞器式ニ之ヲ準用ス

第七節 通票式

第九十九條 通票式ヲ施行スル閉塞區間ニハ通票ヲ備フルコトヲ要ス

2 通票ハ一閉塞區間ニ一箇トシ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ

記入スルコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及第九十六條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第八節 票券式

第一百一條 票券式ヲ施行スル場合ニ於テハ對向列車ニ對スル閉塞區間ニハ通票ヲ、其ノ區間兩端ノ停車場ニハ通票ヲ收容シタル通票函ヲ備フルコトヲ要ス

2 通票ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一箇トシ之ニ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百二條 通票函ハ其ノ區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得サル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第一百三條 隣接區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニシ、通票ハ其ノ色ヲ異ニスルコトヲ要ス

第一百四條 列車ハ當該區間ノ通票又ハ通票ヲ携帯スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一百五條 通票ニハ其ノ區間兩端ノ停車場名、發行年月日及之ヲ使用スル列車名ヲ記入スルコトヲ要ス

2 一列車ニ使用シタル通票ハ他ノ列車ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第一百六條 列車ニ通票ヲ交付スルトキハ當該區間ノ通票ヲ示スコトヲ要ス

2 列車ハ當該區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通票ヲ受領スルコトヲ得ス

第九節 指導法

第一百七條 指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムルコトヲ要ス

2 指導者ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一人トス

第一百八條 指導者ノ氏名及擔當區間ハ豫メ之ヲ關係係員ニ通告スルコトヲ要ス

2 指導者ハ赤色ノ腕章ヲ著クルコトヲ要ス

第一百九條 指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得

第二十條 列車ハ當該區間ノ指導者ニ乗込ミ又ハ指導券ヲ携帯スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第二十一條 列車ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第一百十二條 第一百五條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附 則

第一百三條 本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百十四條 鐵道運轉規程ハ之ヲ廢止ス

○國有鐵道信號規程

(大正十年十月十四日)
鐵道省令第三號

國有鐵道信號規程左ノ通定ム

國有鐵道信號規程

第一章 總則

- 第一條 國有鐵道ニ於ケル信號、合圖及標識ノ方式ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 晝間ト夜間トニ依リ現示方式ヲ異ニスル信號、合圖及標識ハ日出ヨリ日沒迄ハ晝間ノ方式、日没ヨリ日出迄ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ天候ノ狀態ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ方式ニ依リ
- 第三條 隧道内ニ於ケル信號、合圖及標識ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ長一籽以下ノ隧道内ニ於ケル列車標識ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 信號

第一節 常置信號機

- 第四條 常置信號機ノ主ナル種類左ノ如シ
- 一 場内信號機 停車場ニ進入セムトスル列車ニ對スル

- 二 出發信號機 停車場ヨリ進出セムトスル列車ニ對スルモノ
- 三 閉塞信號機 閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ
- 四 掩護信號機 特ニ防護ヲ要スル箇所ヲ通過セムトスル列車ニ對スルモノ
- 五 遠方信號機 前四號ノ常置信號機ニ從屬シ主體ノ信號機ニ向テ進行スル列車ニ對スルモノ
- 六 誘導信號機 場内信號機又ハ出發信號機ニ停止信號ノ現示アル場合誘導ヲ受クヘキ列車ニ對スルモノ
- 七 入換信號機 入換スヘキ列車又ハ車輛ニ對スルモノ
- 第五條 常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕、色燈又ハ燈列ヲ以テ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス
- 一 場内信號機、出發信號機、閉塞信號機及掩護信號機
- | | | | |
|----------|--------------------|------------------|----------|
| 三立式ニ依ル現示 | 腕木式 | 色燈式 | 二立式ニ依ル現示 |
| 停止信號 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 白色燈列
夜間 白色燈列 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 燈列式 |
| 進行信號 | 晝間 白色燈列
夜間 白色燈列 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 燈列式 |

- 注意信號 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈
- 進行信號 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈
- 二 遠方信號機
- 主體ノ信號機力三位
式ニ依ル場合ノ現示
- | | | |
|------|----------------------------------|----------------------------------|
| 腕木式 | 色燈式 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 |
- 主體ノ信號機力二位
式ニ依ル場合ノ現示
- | | | |
|------|----------------------------------|----------------------------------|
| 腕木式 | 色燈式 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 |

- 三 誘導信號機
- 燈列式ニ依ル現示
- 腕木式ニ依ル現示
- 色燈式ニ依ル現示
- 四 入換信號機
- 進行信號 晝間 白色燈列
夜間 左下向四十五度 白色燈列
- 注意信號 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈
- 進行信號 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈
- 二 遠方信號機
- 主體ノ信號機力三位
式ニ依ル場合ノ現示
- | | | |
|------|----------------------------------|----------------------------------|
| 腕木式 | 色燈式 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 |
- 主體ノ信號機力二位
式ニ依ル場合ノ現示
- | | | |
|------|----------------------------------|----------------------------------|
| 腕木式 | 色燈式 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 | 晝間 腕上向四十五度 橙黃色燈
夜間 腕上向九度 橙黃色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 | 晝間 腕上向九度 綠色燈
夜間 腕上向九度 綠色燈 |

國有鐵道信號規程

- 2 上リ勾配區間ニ於ケル自動ノ閉塞信號機ニハ必要ニ應シ左ノ方式ニ依リ徐行許容標ヲ添裝ス
- 第六條 場内信號機、出發信號機、閉塞信號機、掩護信號機及入換信號機ハ停止信號ヲ、遠方信號機ハ注意信號ヲ現示シ誘導信號機ハ信號ヲ現示セサルヲ其ノ定位トス但シ自動ノ閉塞信號機及其ノ遠方信號機ハ進行信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トス
- 第七條 常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ腕端ハ自動ノ閉塞信號機ニ在リテハ尖形、出發信號機ノ遠方信號機ニ在リテハ撥形、其ノ他ノ遠方信號機ニ在リテハ矢筈形トス
- | | | | |
|----------|--------------------|------------------|----------|
| 三位式ニ依ル現示 | 腕木式 | 燈列式 | 二立式ニ依ル現示 |
| 停止信號 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 腕木式 |
| 注意信號 | 晝間 白色燈列
夜間 白色燈列 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 燈列式 |
| 進行信號 | 晝間 白色燈列
夜間 白色燈列 | 晝間 腕木式
夜間 腕水平 | 燈列式 |

2 常置信號機ノ腕ノ表面ハ遠方信號機ニ在リテハ橙黃色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ赤色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ遠方信號機ニ在リテハ黑色其ノ他ノ信號機ニ在リテハ白色線ヲ劃ス

3 常置信號機ノ腕ノ背面ハ白色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ黑色線ヲ劃ス

第八條 常置信號機ノ現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲用フル背面光ハ左ノ方式ニ依ル

- 一 遠方信號機
 - 注意信號 大ナル白光
 - 進行信號 小ナル白光
- 二 其ノ他ノ信號機
 - 停止信號 大ナル白光
 - 注意信號 小ナル白光

第九條 同一柱ニ於テ同一種類ノ信號二以上ヲ現示スル場合ニ於テハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ、以下順次右方ノ線路ニ關スルモノトス但シ自動閉塞式施行區間ニ於ケル場内信號機、出發信號機及閉塞信號機ニ在リテハ最上位ノモノハ最主要ノ線路ニ關スルモノトス

第十條 臨時信號機ノ種類及現示方式左ノ如シ

- 一 停止信號機
 - 停止信號 晝間 白色線ノ赤色長方形板
 - 夜間 赤色燈
 - 二 徐行信號機
 - 徐行信號 晝間 白色線ノ橙黃色圓板
 - 夜間 橙黃色燈
 - 三 徐行解除信號機
 - 徐行解除信號 晝間 白色線ノ綠色圓板
 - 夜間 綠色燈
- 2 臨時信號機ノ標板ノ背面及背面光ハ白色トス但シ單線ニ於テハ徐行信號機ノ標板及燈ノ背面ニ徐行解除信號ヲ現示スルコトヲ得

第三章 手信號

第十一條 信號機ナキ場合及之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

- 停止信號
 - 晝間 赤色旗
 - 夜間 赤色燈
- 徐行信號
 - 晝間 片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得
 - 夜間 片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得
- 徐行解除信號
 - 晝間 片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得
 - 夜間 片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得

進行信號 晝間 綠色旗 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得

徐行信號 晝間 頭上ニ高ク交叉シタル赤色旗及綠色旗 夜間 明滅スル綠色燈

第十二條 入換ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ知シ

- 信號者ノ方へ來レ
 - 晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ル 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ左右ニ動かシテ之ニ代フルコトヲ得
 - 夜間 綠色燈ヲ左右ニ振ル
- 信號者ヨリ去レ
 - 晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ル 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ上下ニ動かシテ之ニ代フルコトヲ得
 - 夜間 綠色燈ヲ上下ニ振ル

停止信號

- 晝間 赤色旗
- 夜間 赤色燈

第四節 發雷信號

第十三條 發雷信號ハ雷管ノ爆發ニ依リ停止信號ヲ現示ス

第十四條 列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ手笛吹鳴ヲ併用スルコトヲ妨ケス

第十五條 保線員ニ對シ直ニ線路ヲ検査スヘキコトヲ請求スル場合ニ於テ列車乗務員ノ爲ス合圖ハ左ノ方式ニ依ル

第十六條 氣笛合圖ハ左ノ方式ニ依ル 運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ

- 列車ノ接近ヲ告クルトキ 長緩氣笛一聲
- 制動機ノ緊締ヲ促ストキ 短急氣笛三聲
- 制動機ノ緩解ヲ促ストキ 適度氣笛二聲
- 危險ヲ警告スルトキ 短急氣笛數聲
- 列車ノ分離シタルトキ 短急氣笛數聲及 適度氣笛一聲

保線係員ヲ招集スルトキ
長緩氣笛數聲
列車防護ノ解除ヲ告クルトキ
長緩氣笛及短急氣笛各一聲
機關車二輛以上ヲ連結スル列車退行セムトスルトキ
短急氣笛二聲及適度氣笛一聲

第四章 標識

第一節 列車標識

第十七條 列車ノ前部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識

但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ機關車前面ノ中央

上部ニ白色圓板一箇

夜間 機關車前面ノ中央上部ニ白色燈一箇

但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ更ニ機關車前部端梁

ノ左側ニ白色燈一箇

2 前項ノ規定ハ機關車ヲ前頭ニ連結セサル列車ニ付之ヲ準用ス

第十八條 列車ノ後部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色圓板一箇

但シ電車ニ限り之ヲ省略スルトコトヲ得

夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色燈一箇

第四節 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識

第二十二條 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

脫線セシムヘキ位置ニ在ルトキ

晝間 前方ヘ白色線ノ赤色長方形板

夜間 前方ヘ赤色燈

脫線セシムルコトナキ位置ニ在ルトキ

晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ横ニ劃シタル橙黃色菱形板

夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第五節 車止標識

第二十三條 車止ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

2 臨時列車ト同方向ニ運轉スル直前ノ列車(電車ヲ除ク)ニハ前項ノ標識ノ外左ノ標識ヲ掲ク

晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色圓板一箇

但シ已ムコトヲ得サル場合ハ赤色旗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第十九條 列車標識ノ圓板ハ同色線ノ燈器ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十條 入換機關車ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識

夜間 前部端梁ノ右側及後部端梁ノ左側ニ赤色燈各一箇

第三節 轉轍器標識

第二十一條 轉轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 前方及後方ヘ中央ニ白色線一條ヲ横ニ劃シタル群青色圓板

夜間 前方及後方ヘ紫色燈

轉轍器反位 晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ矢筈ニ劃シタル橙黃色矢羽形板

夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第二十四條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 鐵道信號規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行前ノ工事ニ著手シ又ハ竣工シタル信號機及標識等ニシテ第七條第二項、第十七條及第二十二條ノ規定ニ牴觸スルモノハ六月内ニ、第十條ノ規定ニ牴觸スルモノハ一年内ニ、第五條ノ規定ニ牴觸スルモノハ二年内ニ、第二十三條ノ規定ニ牴觸スルモノハ三年内ニ之ヲ改築スルコトヲ要ス

晝間 無標識
夜間 ×形白色燈

附 則

本規程施行前ノ工事ニ著手シ又ハ竣工シタル信號機及標識等ニシテ第七條第二項、第十七條及第二十二條ノ規定ニ牴觸スルモノハ六月内ニ、第十條ノ規定ニ牴觸スルモノハ一年内ニ、第五條ノ規定ニ牴觸スルモノハ二年内ニ、第二十三條ノ規定ニ牴觸スルモノハ三年内ニ之ヲ改築スルコトヲ要ス

大正十三年十一月廿五日發行
昭和二年九月廿九日改訂第四版發行
昭和五年九月廿三日改訂第五版印刷
昭和五年九月廿六日改訂第五版發行

定價 ¥ 2.20

不
許
複
製

發行兼
印刷者

東京府荏原郡大井町一一九二番地

木下武之助

電話高輪三九〇七

發行所

東京市神田區鍋町ア一チ第三號

株式會社 鐵道時報局

電話神田三二九番

振替東京四二三番

大清宣統元年十一月十五日
宣統二年正月十五日
宣統三年正月十五日
宣統四年正月十五日

宣統元年

宣統
元年

宣統元年十一月十五日
宣統二年正月十五日
宣統三年正月十五日
宣統四年正月十五日
宣統五年正月十五日
宣統六年正月十五日
宣統七年正月十五日
宣統八年正月十五日
宣統九年正月十五日
宣統十年正月十五日

14.7

519

